PC-DMIS DCI/DCT Manual

For PC-DMIS 2013

By Wilcox Associates, Inc.

Copyright © 1999-2001, 2002-2013 Hexagon Metrology and Wilcox Associates Incorporated. All rights reserved.
PC-DMIS, Direct CAD, Tutor for Windows, Remote Panel Application, DataPage, and Micro Measure IV are either registered trademarks or trademarks of Hexagon Metrology and Wilcox Associates, Incorporated.
SPC-Light is a trademark of Lighthouse.
HyperView is a trademark of Dundas Software Limited and HyperCube Incorporated.
Orbix 3 is a trademark of IONA Technologies.
I-DEAS and Unigraphics are either trademarks or registered trademarks of EDS.
Pro/ENGINEER is a registered trademark of PTC.
CATIA is either a trademark or registered trademark of Dassault Systemes and IBM Corporation.
ACIS is either a trademark or registered trademark of Spatial and Dassault Systemes.
3DxWare is either a trademark or registered trademark of 3Dconnexion.
lp_solve is a free software package licensed and used under the GNU LGPL.
PC-DMIS for Windows uses a free, open source package called lp_solve (or lpsolve) that is distributed under the GNU lesser general public license (LGPL).

```
lpsolve citation data
----------------------
Description: Open source (Mixed-Integer) Linear Programming system
Language: Multi-platform, pure ANSI C / POSIX source code, Lex/Yacc based parsing
Official name: lp_solve (alternatively lpsolve)
Release data: Version 5.1.0.0 dated 1 May 2004
Co-developers: Michel Berkelaar, Kjell Eikland, Peter Notebaert
License terms: GNU LGPL (Lesser General Public License)
Citation policy: General references as per LGPL
Module specific references as specified therein
You can get this package from:
http://groups.yahoo.com/group/lp_solve/
```

PC-DMIS for Windows uses this crash reporting tool:
“CrashRpt”
Copyright © 2003, Michael Carruth
All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the author nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

Direct CAD™ Interfaces および Translators 1
Direct CAD Interfaces : はじめに 1
なせﾀﾞｲﾚｸﾄCADｲﾝﾀｰﾌｪｰｽですか？ 1
ﾀﾞｲﾚｸﾄCADｲﾝﾀｰﾌｪｰｽとは何ですか？ 1
ﾀﾞｲﾚｸﾄCADｲﾝﾀｰﾌｪｰｽはなぜ重要ですか？ 1
Direct CAD Interfaces のインストールと使用 2
サポートされたCADシステム 2
接続ステータスインジケータ 2
Unigraphics Direct CAD Interface 2
CATIA 4 ダイレクトCADインタフェース 6
CATIA 5 ダイレクトCADインタフェース 11
Pro/ENGINEER Direct CAD Interface のテスト 14
I-DEAS ダイレクトCADインタフェース 18
I-DEAS バージョン 10 以降の Direct CAD Interface 30
ACIS ダイレクトCADインタフェース 34
SolidWorks Direct CAD Interface 36
高度なレジストリオプションの設定: はじめに 37
I-DEAS オプション 38
Unigraphics オプション 44
SolidWorks オプション 48
Pro/Engineer オプション 49
ダイレクト CAD インターフェイスのトラブルシューティング 51
Unigraphics DCIのエラーのトラブルシューティング 51
CATIA DCIのエラーのトラブルシューティング 52
Pro/ENGINEER DCI のエラーのトラブルシューティング 54
I-DEAS DCIのエラーのトラブルシューティング 55
SolidWorks DCIのエラーのトラブルシューティング 56
CATIA5 DCIのエラーのトラブルシューティング 57
Direct CAD Translators : はじめに 58
DCT用サポートされたCADシステム 58
ダイレクトCADトランスレーターの使用 59
PC-DMIS用CATIA 4Direct CAD の使用 59
PC-DMIS用CATIA 5Direct CAD の使用 60
PC-DMIS用Pro/ENGINEER Direct CAD の使用 60
PC-DMIS用UnigraphicsおよびParasolid Direct CAD の使用 61
索引 63
用語集 65

Direct CAD™ Interfaces および Translators

Direct CAD Interfaces : はじめに

Direct CAD Interfaces は PC-DMIS 製品から CAD システムへ直接接続します。このため、PC-DMIS 内で様々な CAD システムからのネイティブ CAD データを使用できます。

用語に関する注記: 本書では、ほとんどの場合 "PC-DMIS" という用語は Direct CAD Interfaces をサポートする PC-DMIS 製品すべてを意味します。現在、これらは、PC- DMISとPC-DMISプランナーが含まれています。製品の具体的な手順が必要とされる場合には、特定のPC-DMIS製品名が使用されます。

なせダイレクトCADインターフェースですか？

迅速かつ正確にパーツプログラムを測定するためには最良のツールが必要です。
PCベースDMIS™は他の幾何学的測定パッケージとは比べ物にならないほど強力なツールを提供しています。

- CADシステムとの組み合わせでPC - DMISの使用で柔軟性をお楽しみします。（Unigraphics、CATIA、 Pro/ENGINEER、I-DEAS とACISを含む）
- PC-DMISの内部のCAD形式に変換CADシステムからのデータの変換に関連付けられているエラーや制限の可能性は避けてください。
- CADデータを様々なCADシステムへのネイティブを使用してPC-DMISと作業します。
- 数学ルーチンを他のCADシステムへのネイティブ使用してPC - DMIS内の計算情報を表示します。
- CADシステムのネイティブのジオメトリとディスプレイ、および相互作用し、すべては決してPC-DMISを残しません。

ダイレクトCADインターフェースとは何ですか？

PC-DMIS
内の様々なCADシステムからのデータを使用しての以前の試みでは、時間のエラーやデータの損失を受けやすいにあった内部のCADデータ変換を要求します。
直接CADシステムとのインターフェイスが、CADデータを*変換*しません。代わりに、このユニークな機能が実際に要求された情報を取得するためにCADシステムの*ネイティブな数学ルーチン*を使用しています。ダイレクトCADインターフェイスには、CADシステムのネイティブAPIを表示したり、幾何学と対話するためのCADデータベースにアクセスするために使用しています。

ダイレクトCADインターフェースはなぜ重要ですか？

直接CADシステムのライセンスを必要とするCADシステムとのインターフェイスが、それは多くの利点を提供しています。以下の内容が含まれます。

- PC-DMIS内のインターフェイスはCADに直接リンクされています。
- 正確なCADデータ、変換エラーおよび制約から自由です。
- 将来にGD&T情報にアクセスし、CADシステムはネイティブAPIを使用してこの情報を公開します。
- プログラミング時間を短縮してプログラムの品質を改善します。

ダイレクトCADインターフェイスのおかげで、ここで簡単にかつ正確に、時間と精度を保存するのはPC-DMISで直接様々なCADシステムからのデータを使用することができます。

Direct CAD Interfaces のインストールと使用

以下の主要なトピックでは PC-DMISがサポートする CAD
システムについて説明し、そのインストールやアクセス手順についても触れます。

注記: これらのトピックにある手順では、ユーザーは Windows XP オペレーティング
システムを使用していると想定しています。 別のオペレーティング
システムを使用している場合は記載内容が若干異なる場合があります。

サポートされたCADシステム

Hexagon Metrology は PC-DMIS Versions 3.25 と以前のバージョンで複数のCADシステムにDirect CAD Interfaces 及び Direct CAD Translatorsを開発しました:、からオンラインで入手できます。
支援されているCADシステムの一覧は、このHexagon
Metrologyオンラインサポートページからオンラインで入手できます: http://support.hexagonmetrology.us
(「支援される CAD システム」を検索する)

最小ライセンス要件

PC-DMIS と CAD システムが直接インターフェイスを取るのに必要なライセンスは、このHexagon Metrologyサポートサイト: http://support.hexagonmetrology.us ("minimum license requirements"
で検索)からオンラインで利用可能です。

接続ステータスインジケータ

既に確立されていた DCI 接続がもはや利用できない場合、DCI 接続ステータスインジケータ が PC-DMIS ステータスバーに表示されます。 この原因は以下である可能性があります:

- DCI ライセンスが利用できないエラーが起こっている。
  このライセンスエラーを確認し、代わりにテセレーションデータを使用することはできますが、DCI 接続は切断され、このアイコンが表示されます。 DCI ライセンスが利用できなくても PC-DMIS はテセレーション CAD データを表示することはできます。
- 以前に接続していた DCI データファイルが利用できない。

DCI 接続ステータスインジケータ
アイコンの上にマウスを置くと、切断の原因の正確なメッセージが表示されます。切断されたままで続行するか、現在の問題を解決すつが選択できます。DCI
ライセンスが再起動するか、ファイルが再度利用可能になるまでこのアイコンは表示されます。

Unigraphics Direct CAD Interface

PCベースDMISをインストールするには、このセクションの手順に従って直接のCADインターフェイスをUnigraphicsのを使用するようにシステムを設定します。

- 先に進む前に、完全な管理者権限を持っていることを確認します。
- まだ行っていない場合、PC-DMISを実行する同じコンピュータ上でUnigraphicsのV15以上をインストールしてください。フローティング（ネットワーク）ライセンスやロックライセンスは、DCI Unigraphicsのを実行するのいずれか使用することができます。ただし、PC-

DMISがUnigraphicsのとインターフェイスできるために、ローカルマシン上でUnigraphicsのを実行できる必要があります

- 最小でUnigraphics *ゲートウェイ*を持つ必要があります。
  - バージョンNX 1 ～ NX 4 の場合に、*ufunc_execute* ライセンス要素が必要になります。
  - NXの5以上の場合には、ufunc_executeライセンス機能を必要としないですが、*solid_modeling* と *アセンブリ* ライセンス要素が必要です。
- プランナーDCIには、*ゲートウェイ*, *solid_modeling*, *アセンブリ*, と *製図* ライセンス要素が必要です。

Unigraphicsから必要なすべてのライセンス要素を購入することができます (http://www.unigraphics.comを参照してください)。

ステップ 1: PC-DMIS のインストール

はじめに、PC-DMIS をインストールする必要があります。PC-DMIS をインストールするには、以下の手順に従います。

1. PC-DMIS ポートロック (別名ドングル) を PC の適切なポートに差し込みます。
2. PC-DMIS CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
3. Windows Explorer を使用し、CD-ROM のディレクトリを開いて PC-DMIS の**setup.exe** アプリケーションのディレクトリに移動します。
4. (実行)ファイル **setup.exe**をダブルクリックします。
5. これにより、PC-DMIS インストールシーケンスが起動します。
6. スクリーン上の手順に従い、PC-DMIS のインストールを完了させます。

これにより、PC-DMIS インストールが完了します。

ステップ2: UG/NX 環境変数をDCI用に設定

UG/NX DCI は UG/NX インストールで設定された環境変数を使用します。

注記: Unigraphics が PC-DMIS と同じコンピュータにインストールされている場合、このステップを省略することができます。ネットワーク(マップドライブ)にインストールされている場合、必要な環境変数を設定する必要があります。

これを扱うには2つの方法があります:

方法 1: PC-DMIS を NX コマンドプロンプトから実行する

最初の方法は PC-DMIS を NX コマンドプロンプトから実行します。 “Start-<NX” メニューの下で、"NX Tools->Command Prompt" オプションからコマンドプロンプトを開始します。 こうするとPC-DMISをコマンドプロンプトから実行できます。

方法 2: 環境変数を手動で設定する

2番目の方法は、必要な環境変数を設定してPC-DMISにNXライセンスサーバーおよびNX実行ファイルのある場所を教えます。

必要な環境変数は以下のように設定する必要があります。

- UGS_LICENSE_BUNDLE=NXPTNR100;NXPTR101 –
  この変数はUGライセンスサーバーにどのライセンスバンドルを持っているかを伝えます。
  この例では、セミコロン";"で区切られた2つの異なるライセンスバンドル名を示しています。
  バンドル名はUG/NXライセンスファイルのPACKAGE行で見つかります。
  - PACKAGE **NXPTNR100** ugslmd…

- UGS_LICENSE_SERVER=28000@mordor -

この変数はUG/NXライセンスサーバーの名前を伝えます。
この例ではライセンスサーバーがmordorと名付けられています。

- UGII_BASE_DIR=C:\Program Files\UGS\NX 7.5 –

この変数はUG/NXインストールディレクトリです。

- UGII_ROOT_DIR=C:\Program Files\UGS\NX 7.5\UGII\ -

この変数はUG実行ファイルの場合のルートディレクトリです。 PC-DMIS UG/NX DCI はこの環境変数を使用してUG/NX実行ファイルを見つけます。

- これらの環境変数はプログラムをデバッグする場合に便利です:
  - UGII_KEEP_SYSTEM_LOG=YES –
    各UG/NXセッションでログファイルが作成されます。
    この変数をYesに設定するとUG/MX画終了したときにログファイルが削除されるのを防ぎます。
  - UGII_TMP_DIR=C:\Windows\TEMP\UGS –
    この変数はUG/NXによって使用される一時ディレクトリを設定します。
    ログファイルはこのディレクトリ下に置かれます。
  - UGS_LICENSING_NOTE=1 –
    この変数を設定するとUG/NXライセンスメッセージがログファイルに追加されるよう指定されます。
  - UGII_FLEX_NOTE=ON – この変数を設定するとUG/NX Flexライセンスメッセージがログファイルに追加されるよう指定されます。

ステップ 3: Unigraphics Direct CAD Interface のテスト

PC-DMIS をインストールしたら、Unigraphics パートファイルをインポートして Direct CAD Interface をテストする必要があります。
Unigraphics DCI をテストするには以下のステップを完了します。

PC-DMIS の起動

1. [スタート] メニューより、[**プログラム | PC-DMIS for Windows | オンライン**] を選択します。PC-DMIS が起動します。以下と同じ手順に従い、PC-DMIS を**オフライン** モードで実行することにより、これを試験することもできます。
2. [**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れたらキャンセルします。

パーツプログラムの新規作成

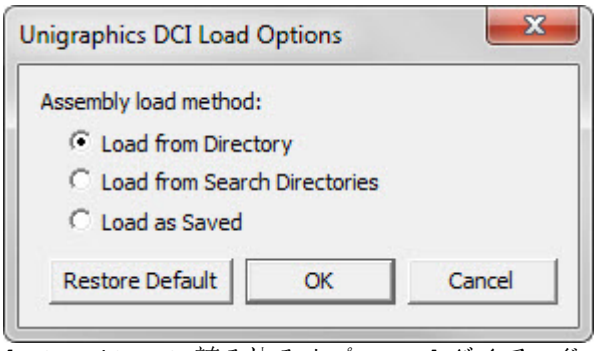
1. 新規パーツプログラムを作成するには [**ファイル | 新規作成**] を選択します。[**新規パーツプログラム**] ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**パーツ名**] ボックスにパーツプログラムの名前を入力し、必要ならばその他のボックスにも入力します。
3. [**測定単位**] エリアから測定の単位を選択します。これは、インポートする CAD ファイルで使用している単位と一致させる必要があります。
4. [**OK**]をクリックします。 このダイアログボックスが閉じ、[**プローブユーティリティ**] ダイアログ ボックスが開きます。
5. [**プローブ ユーティリティ**] ダイアログ ボックスの [**キャンセル**] ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
6. [**OK**]をクリックします。

必要に応じてプローブを校正します。プローブを校正しないと選択した場合、PC-DMIS はプローブが校正されていないことを伝えるメッセージを表示します。[**OK**] をクリックして続行します。

アセンブリ読み込み方式の変更

Unigraphics ファイルをインポートする前に [**アセンブリ読み込み方式**] を選択する必要があります。この方法は、アセンブリを読み込む際にアセンブリのコンポーネントを検索するのに使用されます。方法を選択するには、以下の操作を行います。

1. [**編集 | グラフィックの表示ウィンドウ | DCI | Unigraphics**] を選択して [**Unigraphics DCI 読み込みオプション**] ダイアログ ボックスを開きます。



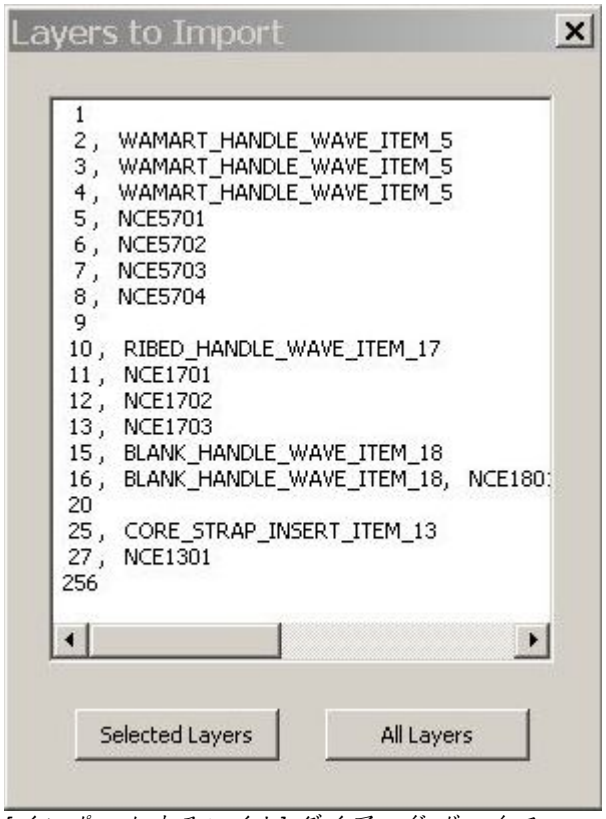
[Unigraphics DCI 読み込みオプション] ダイアログ ボックス

2. 以下のオプションのうち 1つを選択します。
   - **ディレクトリから読み込み** - Unigraphics はアセンブリが含まれるのと同じディレクトリでアセンブリコンポーネントファイルを検索します。
   - **検索ディレクトリから読み込み** - Unigraphics は *load_options.def* ファイルを検索します。このファイルには Unigraphics がアセンブリコンポーネントファイルの検索対象に指定したディレクトリの一覧が含まれています。
   - **保存したように読み込み** - Unigraphics は完全パスを使用してアセンブリで保存されたようにコンポーネントファイルを読み込みます。
3. [**デフォルトに復元**] をクリックすると、レジストリが **設定エディタ** アプリケーションの [オプション] セクションにある [`UGLoadOption`] から設定されたように、デフォルトの方法が設定されます。「UGLoadOption」トピックを参照してください。
4. [**OK**] をクリックして選択した [**アセンブリの読み込み方式**] を設定し、ダイアログ ボックスを閉じるか、または [**キャンセル**] をクリックし変更を適用せずにダイアログ ボックスを閉じます。

Unigraphics パートファイルのインポート

1. 選択 [**ファイル | Direct CAD Interfaces ® | Unigraphics**] メニューオプションを選択します。[**開く**]ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**ファイルの種類**] リストから、**Unigraphics DCI ファイル**を選択します。
3. インポートする UG ファイルがあるディレクトリに進みます。
4. UG パート (.prt の拡張子を持つもの) を選択します。
5. インポート**をクリックします**。 このダイアログボックスが閉じます。

6. [**インポートするレイヤ**] ダイアログが表示されます。このダイアログには CAD データを含むレイヤがそのレイヤのカテゴリ名と共に表示されます。



[インポートするレイヤ] ダイアログ ボックス

7. 必要なレイヤを選択して [**選択したレイヤ**] をクリックすると、これらのレイヤにある CAD データのみがインポートされます。[**すべてのレイヤ**] をクリックするとすべてのレイヤから CAD データがインポートされます。
8. PC-DMIS は選択したファイルをインポートします。
9. いつものようにPC-DMISを使用してください。

CATIA 4 ダイレクトCADインタフェース

PC-DMIS で機能する CATIA ファイルをインポートするには以下の手順に従います:

- Windows NT、2000、または XP コンピュータにインストールする場合、完全な管理者権限を持っていることを確認してから続行してください。
- まだの場合は、CATIA V4.2.x を UNIX ワークステーション (IBM、SGI、HP または SUN Solaris) にインストールします。

ステップ 1: CATIA システムへ Pcdcat インターフェイスファイルのインストール

1. CATIA システムが現在実行している UNIX オペレーティング システムを判別します。サポートされるオペレーティングシステムは、以下のとおりです。
   - IBMの *AIX*
   - SGIの *IRIS*
   - HPの *HP-UX*

- SUNの *SOLARIS*

2. PC-DMIS ファイルのインストール用に、CATIA ユーザーディレクトリの下に "pcdmis" という名前のディレクトリを作成します。

例: /home/catadm/pcdmis

3. 正しい PC-DMIS/CATIA インターフェイスファイルを UNIX ワークステーションの Pcdmis ディレクトリに移動します。このインターフェイスファイルは、お使いの UNIX ワークステーションの種類に応じて以下のうちのいずれかとなります:
   - pcdcat.ibm.gz
   - pcdcat.sgi.gz
   - pcdcat.hp.gz
   - pcdcat.sun.gz
4. または ftp://wilcoxassoc.com/dci/catia/ から最新の PC-DMIS/CATIA インターフェイスファイルをダウンロードすることも可能です。
5. UNIX ステーションで、以下の`gunzip` コマンドを使用して pcdcat ファイルを解凍します: `gunzip <ファイル名>`。
6. ファイルを UNIX ワークステーションの Pcdmis ディレクトリに保存し解凍したら、ファイル名を “pcdcat” だけに変更します (ファイル拡張子は付けません)。

ステップ 2: CATIA システムへ Pcdmis.dat ファイルのインストール

Pcdmis.dat は CATIA が Windows 95,、Windows 98、Windows NT、Windows 2000、または Windows XP オペレーティングシステムと通信できるようなネットワーク情報を含む単純なデータテキストファイルです。

1. Place Pcdmis.dat を UNIX ワークステーションの Pcdmis ディレクトリに保存します。またはこのファイルを ftp://wilcoxassoc.com/dci/catia/ からダウンロードすることも可能です。
2. Pcdmis.dat を「UNIX ワークステーションの Pcdmis.dat ファイルの例」に示すように編集し、必要なポートおよび IP アドレス情報を含むようにします。必要に応じて、このファイルを以下の2つの追加オプションで編集することもできます:

オプション	内容
DEBUG	デバッグファイルの作成をオンにします。このファイルはWindows と UNIX システムの通信ログとなります。また、UNIX システムで発生したプロセスも含まれます。 **注記:** このオプションを使用する場合、システムの資源に負担をかけるような非常に大きなファイルが作成される場合があるので注意が必要です。
EXIT	PC-DMIS を終了するたびに PCDCAT (インターフェイスファイル) を終了します。これを使用しない場合、PCDCAT は終了せずに実行を継続し、PC-DMIS が通信するのを待機します。
PORT2	EXIT が設定されていない場合、PORT2 は開いている TCP/IP ポートに設定する必要があります。PCDCAT はそれから PC-DMIS が接続するたびに別個のプロセスを生成します。これにより、PC-DMIS は常にオンとなり PC-DMIS からの接続を待機しますが、PC-DMIS が接続しているときは CATIA ライセンスを使用するだけです。

UNIX ワークステーションの Pcdmis.dat ファイルの例

$ PC-DMIS/CATIA インターフェイス

```
IP=205.158.132.244;
(注: UNIX ワークステーションの IP アドレス)
PORT=5555;
(注: UNIX と Windows で同じポートを使用)
PORT2=5556;
(注: このポートは UNIX 側のプロセス間通信に使用します。任意)
DEBUG;
(任意)
EXIT;
(任意)
```

ステップ 3: ファイルの宣言

CATIA Direct CAD Interface がパスにアクセスできるよう、パスを CATIA 宣言ファイルで定義する必要があります。 これを行える 2つのファイルがあります。多くのシステムで、これらは以下の2つのファイルです。

"/home/catadm/USRENV.dcls"
"/home/catadm/dec/CATIA.dcls".

標準的なテキストエディタで、CATIA 宣言ファイル *Catia.dcls* を編集してモデルディレクトリおよび/またはエイリアスを定義します (「UNIX ワークステーションの Catia.dcls ファイルの例」を参照してください)。

注記: 通常は、編集する必要のあるファイルは Catia.dcls のみですが、場合によっては両方のファイルを編集する必要があります。

UNIX ワークステーションの Catia.dcls ファイルの例

```
/* ---------------------------------------------------------- */
/* MODEL declarations */
/* ---------------------------------------------------------- */
catia.MODEL = '"$HOME/db","PCDMIS"';
catia.MODEL = '"/home/catadm/pcdmis","PCDMIS2"';
catia.MODEL = '"/home/catadm","PCDMIS5"';
パスの最初の部分は…
'"$HOME/db"
'"/home/cadadm/pcdmis/"
'"/home/cadadm/"
…は CATIA モデルのパスです。
パスの 2番目の部分は…
"PCDMIS"';
"PCDMIS2"';
"PCDMIS5"';
…はエイリアスです。
ここに示すように、エイリアスを付けずにパスを変更できます :
catia.MODEL = '$HOME/db' ;
catia.MODEL = '/home/catadm/db' ;
```

ステップ 4: PC-DMIS のインストール

次に、PC-DMIS をインストールする必要があります。PC-DMIS をインストールするには、以下の手順に従います。

1. PC-DMIS ポートロック (別名ドングル) を PC のプリンタ用ポートに差し込みます。
2. PC-DMIS CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。

3. Windows Explorer を使用し、CD-ROM のディレクトリを開いて PC-DMIS の**setup.exe** アプリケーションのディレクトリに移動します。
4. **setup.exe** (実行) ファイルをダブルクリックします。
5. これにより、PC-DMIS インストールシーケンスが起動します。
6. スクリーン上の手順に従い、PC-DMIS のインストールを完了させます。

これにより、PC-DMIS インストールが完了します。

ステップ 5: PC システムと UNIX システムのネットワーキング

Direct CAD Interface を機能させるためには、PC-DMIS の入ったコンピュータはファイル転送プロトコル (FTP) コマンドが可能な TCP/IP ネットワークを経由して CATIA システムと通信する必要があります。

PC 上でネットワークのセットアップ

1. [**スタート**] メニューより、[**設定 | コントロールパネル**] を選択します。
コントロールパネルが表示されます。
2. [**ネットワーク**] アイコンをダブルクリックします。
3. [**プロトコル**] タブを選択します。
4. [**ネットワーク プロトコル**] リストより、TCP/IP ネットワークプロトコルがインストールされているか確認します。 そうでない場合、[**追加**] ボタンをクリックして画面の指示に従います。
5. [**ネットワーク プロトコル**] リストより、**TCP/IP プロトコル**を選択します。
6. **[プロパティ]** ボタンをクリックします。 **[Microsoft TCP/IP プロパティ]** ダイアログボックスが表示されます。
7. **[IP アドレスを指定]** オプションを選択します。
8. **[IP アドレス]** ボックスに使用している NT システムで有効な IP アドレスを入力します。

レジストリの変更

1. 設定エディタを開きます。
2. [CATIA] セクションの隣にあるプラスサイン(+) をクリックします。
リストが展開します。
3. [CatiaPort]、[CatiaAddress]、および [CatiaDirectory] エントリを変更し、CATIA UNIX ワークステーションの IP アドレス、有効なポート番号、およびインポートする CATIA ファイルのディレクトリの位置を含むようにします。「CATIA 情報で変更されたレジストリの例」を参照してください。
4. 変更が終わったら設定エディタを保存して閉じます。

CATIA 情報で変更されたレジストリの例 ：

[OPTION]

`CatiaPort=5555`

(**注:** UNIX システムと Windows システムで同じポートを使用)

`CatiaAddress=205.158.132.244`

(**注:** UNIX ワークステーションの IP アドレスを使用)

`CatiaDirectory=PCDMIS`

(**注:** これは CATIA システムにあるモデルファイルのデフォルト位置)

ステップ 6: CATIA Direct CAD Interface のテスト

最後のステップとして PC-DMIS を実行し CATIA ファイルをインポートします。ここに記載する手順に従う前に、UNIX ワークステーションで Pcdcat を実行します。

CATIA DCI をテストするには以下のステップを完了します。

PC-DMIS の起動

1. [スタート] メニューより、[**プログラム | PC-DMIS for Windows | オンライン**] を選択します。PC-DMIS が起動します。以下と同じ手順に従い、PC-DMIS を**オフライン** モードで実行することにより、これを試験することもできます。
2. [**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れたらキャンセルします。

パーツプログラムの新規作成

1. 新規パーツプログラムを作成するには [**ファイル | 新規作成**] を選択します。[**新規パーツプログラム**] ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**パーツ名**] ボックスにパーツプログラムの名前を入力し、必要ならばその他のボックスにも入力します。
3. [**測定単位**] エリアから測定の単位を選択します。これは、インポートする CAD ファイルで使用している単位と一致させる必要があります。
4. [**OK**]をクリックします。 このダイアログボックスが閉じ、[**プローブユーティリティ**] ダイアログ ボックスが開きます。
5. [**プローブ ユーティリティ**] ダイアログ ボックスの [**キャンセル**] ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
6. [**OK**]をクリックします。

必要に応じてプローブを校正します。プローブを校正しないと選択した場合、PC-DMIS はプローブが校正されていないことを伝えるメッセージを表示します。[**OK**] をクリックして続行します。

CATIA CAD ファイルのインポート

1. [**ファイル | Direct CAD Interfaces ® | CATIA 5**] メニューオプションを選択します。**開く**ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**ファイルの種類**] リストから、**CATIA ファイル DCI** を選択します。
3. CATIA パーツ ファイルを含むディレクトリに進みます。
4. CATIA パーツファイルを選択します。

5. **インポート**ボタンをクリックして下さい。[**Catia 取得モデル**] ダイアログボックスが開きます。
6. 必要に応じて適切なディレクトリやエイリアス情報を入力します。
7. [**モデル名を取得**] ボタンをクリックします。CATIA モデルの一覧が現れます。
8. リストから CATIA モデル名 (最大20個) を選択します。
9. **OK** ボタンをクリックして下さい。PC-DMIS がファイルをインポートします。
10. いつものようにPC-DMISを使用してください。

接続に失敗: If PC-DMIS が Catia ワークステーションに接続できない場合、その旨を伝えるメッセージが表示され、TCP/IP の設定を変更するかどうかを尋ねられます。[**はい**] をクリックすると [**TCP/IP プロパティの編集**] ダイアログ ボックスが開いて TCP/IP とポートの設定が変更できるようになります。
注記: CAD システムに接続しないで DCI を使用したい場合は、`CatiaLoad` レジストリエントリを変更することでこれを簡単に指定できます。

手順は次のとおりです:

1. 設定エディタを開きます。
2. `[CATIA]` セクションの隣にあるプラスサイン(+) をクリックします。リストが展開します。
3. `CatiaLoad` エントリの設定を `FALSE` に変更します。
4. 変更が終わったら設定エディタを保存して閉じます。

PC-DMIS は CAD システムに接続を試みることは行いませんが、代わりに保存した CAD ビューをロードするオプションを提供します。
さらに、PC-DMIS 3.5 MR2 以降では、[**CATIA 取得モデル**] ダイアログ ボックスに [**モデルを変換**] チェックボックスあります。 このチェックボックスでは CATIA モデルを PC-DMIS のネイティブフォーマットに変換できます。 このチェックボックスを使用する場合には CATIA サーバーは必要ありません。

CATIA 5 ダイレクトCADインタフェース

CATIA 5 ファイルをインポートし、PC-DMIS で動作するようにする以下の手順に従います:

- Windows NT、Windows 2000、または Windows XP コンピュータにインストールする場合、完全な管理者権限を持っていることを確認してから続行してください。
- まだ行っていない場合、PC-DMISがインストールされているのと同じコンピュータに CATIA 5 をインストールしてください。 現在、CATIA 5 リリース8およびリリース10以上がサポートされています。
- DCI を使用するのに最低限必要な CATIA 5 ライセンスは MD1 構成です。
- CATIA 5 DCI を使用する前に、少なくとも1回は CATIA 5 を実行してライセンス構成を選択する必要があります。一度ライセンス構成を選択すれば、再度 CATIA 5 を実行する必要はありません。

ステップ 1: PC-DMIS のインストール

はじめに、PC-DMIS をインストールする必要があります。PC-DMIS をインストールするには、以下の手順に従います。

1. PC-DMIS ポートロック (別名ドングル) を PC の適切なポートに差し込みます。
2. PC-DMIS CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。

3. Windows Explorer を使用し、CD-ROM のディレクトリを開いて PC-DMIS の**setup.exe** アプリケーションのディレクトリに移動します。
4. (実行)ファイル **setup.exe**をダブルクリックします。
5. これにより、PC-DMIS インストールシーケンスが起動します。
6. スクリーン上の手順に従い、PC-DMIS のインストールを完了させます。

これにより、PC-DMIS インストールが完了します。

ステップ 2: オプション環境ファイルの指定

システムにインストールされている CATIA 5 固有のインストーラを PC-DMIS に使用させたい場合、以下のステップを追加する必要があります。これらのステップを行わないと、CATIA 5 のデフォルトインストールが使用されます。これは通常、システムにインストールされている最新の CATIA 5 リリースとなります。多くの場合、デフォルトの CATIA 5 インストールで十分です。

デフォルト以外の CATIA 5 インストールを PC-DMIS が使用するように指定するには、PC-DMIS 設定エディタプログラムで環境ファイルを指定する必要があります。 環境ファイルには CATIA 5 を正しく実行するのに必要な設定が含まれています。 デフォルトの環境ファイルは通常 "**c:\Documents and Settings\{ユーザー名}\Application Data\DassaultSystemes\CATEnv\DefaultEnvironment.txt**"にあります(ここで**{ユーザー名}**は現在ログインしているユーザーのユーザー名に置き換えます)。

環境ファイルすべての完全なリストは、通常"**c:\Documents and Settings\All Users\Application Data\DassaultSystemes\CATEnv**"にあります。

使用する環境ファイルを指定するには、以下のステップに従います:

1. [**スタート**] メニューより、[**プログラム | PC-DMIS for Windows | 設定エディタ**] を選択します。
2. 設定エディタプログラムより、**CATIA 5** セクションに移動し**EnvPath** エントリを選択します。
3. [**現在の値**] より、環境ファイルの完全パスを入力します。
   例えば、**c:\Files ディレクトリにある**CATIA V5R12.B12.txt ファイルを指定するには、"**c:\Files\CATIA.V5R12.B12.txt**" と入力します。
4. 変更を保存し、PC-DMIS 設定エディタを閉じます。

ステップ 3: CATIA 5 Direct CAD Interface のテスト

最後のステップとして PC-DMIS を実行し CATIA 5 ファイルをインポートします。

CATIA 5 DCI をテストするには以下のステップを完了します。

PC-DMIS の起動

1. [スタート] メニューより、[**プログラム | PC-DMIS for Windows | オンライン**] を選択します。PC-DMIS が起動します。以下と同じ手順に従い、PC-DMIS を**オフライン** モードで実行することにより、これを試験することもできます。
2. [**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れたらキャンセルします。

パーツプログラムの新規作成

1. 新規パーツプログラムを作成するには [**ファイル | 新規作成**] を選択します。[**新規パーツプログラム**] ダイアログ ボックスが現れます。

2. [パーツ名]
ボックスにパーツプログラムの名前を入力し、必要ならばその他のボックスにも入力します。
3. [測定単位] エリアから測定の単位を選択します。これは、インポートする CAD ファイルで使用している単位と一致させる必要があります。
4. [**OK**]をクリックします。 このダイアログボックスが閉じ、[プローブユーティリティ] ダイアログ ボックスが開きます。
5. [プローブ ユーティリティ] ダイアログ ボックスの [キャンセル] ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
6. [**OK**]をクリックします。

必要に応じてプローブを校正します。プローブを校正しないと選択した場合、PC-DMIS はプローブが校正されていないことを伝えるメッセージを表示します。[**OK**] をクリックして続行します。

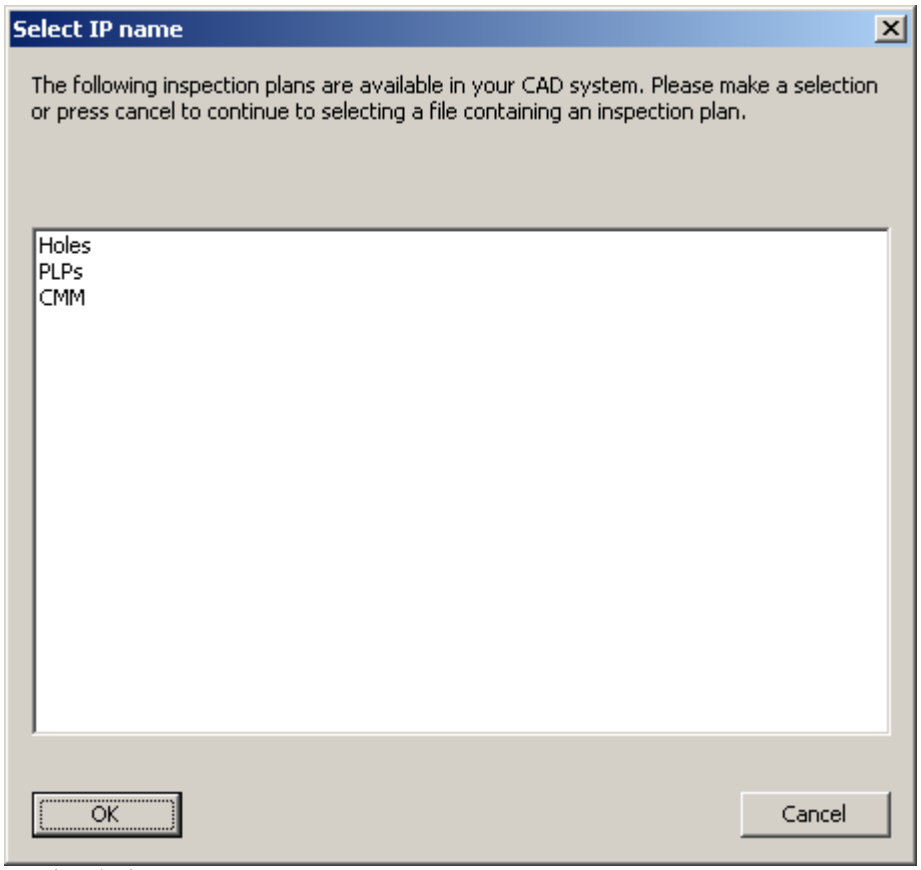
CATIA 5 ファイルへ接続 ：

1. [ファイル | **Direct CAD Interfaces ® | CATIA 5**] メニューオプションを選択します。 開く ダイアログ ボックスが現れます。
2. ハードドライブのディレクトリを参照し、CATPart または CATProduct ファイルを選択します。
3. **OK** ボタンをクリックして下さい。PC-DMIS がファイルに接続します。
4. いつものようにPC-DMISを使用してください。

ユーザー定義オブジェクトのインポート

ダイムラークライスラーでは、ETools と呼ばれる内部ツールを使用して CATIA 5 ファイルにユーザー定義オブジェクト (UDO) を貼り付けることができます。これらの UDO はパートの測定要素を定義します。PC-DMIS では CATIA 5 DCI を介して UDO にアクセスできます。埋め込み UDO にアクセスするには：

1. [ファイル | **Direct CAD Interface | CATIA 5**] を選択します。
2. UDO が埋め込まれた CATIA 5 パートまたはアセンブリファイルの場所に移動して選択します。
3. インポートをクリックして下さい。
4. [ファイル | インポート | **Inspection Plan**] を選択します。UDO を作成した ETool がパートで定義されている場合、[IP 名を選択] ダイアログ ボックスが現れます。



[IP 名を選択] ダイアログ ボックス

5. リストより1つ以上の Inspection Plans を選択します (複数の Inspection Plan を選択する場合は **Ctrl** キーを押しながら選択します)。
6. [**OK**] をクリックして選択したプランをインポートするか、キャンセルして CATIA 5 ファイルに埋め込まれていない別の Inspection Plan を参照します。
7. PC-DMIS が PC-DMIS にインポートする IP ファイルを作成します。測定された要素がパーツプログラムに追加されます。

注記: CATIA 5 ファイルに変更を加えた場合、UDO を再度インポートできるようメッセージが表示されます。

Pro/ENGINEER Direct CAD Interface のテスト

このセクションの手順に従って PC-DMIS をインストール し、お使いのシステムが Pro/ENGINEER Direct CAD Interface を使用できるよう設定します。

- まだの場合は、Pro/ENGINEER Revision 2000i2 以降をインストールします。
- 潜在的な問題を回避するために、*Pro/ENGINEER のインストールに使用するディレクトリパスは空白を含まないことを確認します。*デフォルトでは、インストーラは Pro/ENGINEER を C:\Program Files\ 下のサブディレクトリにインストールすることを推奨します。しかし、これを空白のないパスに変更する必要があります。例えば、C:\PTC\Proe<version> (<version> は Pro/ENGINEER のバージョン) というような場所にインスールすることを推奨します。つまり、2000i2 をインストールする場合、インストールディレクトリのパスは C:\PTC\Proe2000i2 のようになります。

- インストールに進む前に、完全な管理者権限を持っていることを確認します。
- Pro/ENGINEER は PC-DMIS

と同じコンピュータシステムにインストールする必要があります。浮動 (ネットワーク) ライセンスまたは固定ライセンスのいずれかを使用して Pro/ENGINEER を実行できますが、PC-DMIS 戸のインターフェイスを取るために Pro/ENGINEER のプロセスはローカルマシンで実行されている*必要があります*。利用可能なライセンスをお持ちでない場合、PTC より購入することができます (http://www.ptc.com を参照してください)。

- Pro/ENGINEER

を正しく実行するには、特定のパスまたは実行ファイル名をシステムに合わせて変更する必要があるかもしれません (使用しているバージョンと必要なファイルの場所によります)。以下の手順は Windows XP システムで Pro/ENGINEER 2000i2 と PC-DMIS を実行する場合にこの作業を行う方法を示しています。

- 重要! 使用しているバージョンの Pro/ENGINEER

に対して、最新のパッチがすべてダウンロードおよびインストール済みであるか確認する必要があります。これらのパッチは www.ptc.com にあります。

ステップ 1: PRO_COMM_MSG_EXE 環境変数の作成

はじめに Pro/ENGINEER 実行ファイル *Pro_comm_msg.exe* の場所を見つけてそのディレクトリパスを新しい環境変数に追加する必要があります。

Pro_comm_msg.exe ディレクトリ パスの定義 :

1. [**スタート**] メニューより、[**検索 | ファイルまたはフォルダ**] を選択します。 [**検索結果**] ウィンドウが現れます。
2. [**ファイル名の全体または一部**] ボックスに PRO_COMM_MSG.EXE と入力します。
3. [**検索対象**] リストより [**ローカル ハードドライブ**] を選択します。
4. [**検索**] をクリックします。コンピュータがこのファイルを検索します。Pro/ENGINEER がローカルマシンにインストールされている場合、検索結果にファイルのディレクトリパスが表示されるはずです。以下のようになります。

   C:\PTC\Proe2000i2\i486_nt\obj\pro_comm_msg.exe

注記: Pro_comm_msg.exe ファイルの検索結果が複数の場所を示した場合、各場所のディレクトリパスを精査し、直接インターフェイスを取りたい Pro/ENGINEER のバージョン、日付、または位置を示しているパスを選択してください。

5. このディレクトリ パスをメモするか、後で参照できるように [**検索結果**] ウィンドウを開いたままにしておきます。

変数の作成およびパスの割り当て :

1. [**スタート**] メニューより、[**設定 | コントロールパネル**] を選択します。コントロールパネルが表示されます。
2. [**システム**] アイコンをダブルクリックします。[**システム プロパティ**] ダイアログボックスが表示されます。

3. [**詳細設定**] タブを選択して [**環境変数**] ボタンをクリックします。 [**環境変数**] ダイアログボックスが表示されます。
4. [**システム変数**] エリアより、[**新規**] ボタンをクリックします。 [**システム変数の新規作成**] ダイアログ ボックスが現れます。
5. [**変数名**] ボックスに PRO_COMM_MSG_EXE と入力します。
6. [**変数値**] ボックスに Pro_comm_msg.exe のディレクトリ パスを入力します ([**検索結果**] ウィンドウよりパスを入力することもできます)。以下のようになるはずです。

   C:\PTC\Proe2000i2\i486_nt\obj\pro_comm_msg.exe
7. [**OK**] ボタンをクリックしてこの値を新規作成した変数に割り当てます。
8. [**システム プロパティ**] ダイアログ ボックスが閉じられるまで [**OK**] ボタンをクリックします。

ステップ 2: PC-DMIS のインストール

Pro/ENGINEER を実行しているシステムに PC-DMIS をインストールしていない場合、以下の手順に従い PC-DMIS バージョン 3.2 以降をインストールします。既に PC-DMIS がインストールされている場合、このステップは飛ばして「ステップ 3: Pro/ENGINEER 情報を持つレジストリの変更」に進んでください。

1. PC-DMIS ポートロック (別名ドングル) を PC のプリンタ用ポートに差し込みます。
2. PC-DMIS CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
3. Windows Explorer を使用し、CD-ROM のディレクトリを開いて PC-DMIS の**setup.exe** アプリケーションのディレクトリに移動します。
4. **setup.exe** (実行) ファイルをダブルクリックします。
5. これにより、PC-DMIS インストールシーケンスが起動します。
6. スクリーン上の手順に従い、PC-DMIS のインストールを完了させます。

これにより、PC-DMIS インストールが完了します。

ステップ 3: Pro/ENGINEER 情報を持つレジストリの変更

このステップでは、レジストリファイルの ProEngineer セクションを編集して実行ファイル名のエントリを含むようにします。

注記: 設定エディタ内で ProEngineer セクションが見つからない場合、カスタマーサポートに電話してこのオプションがポートロック (またはドングル) でオンに設定されているか確認する必要があります。米国内から電話する場合、電話番号は (800) 343-7933 です。米国外から電話する場合、電話番号は (1) (800) 343-7933 です。

1. PC-DMIS プログラムグループから PC-DMISの 設定エディタにアクセスします。[**スタート | プログラムファイル | PC-DMIS for Windows**] を選択し、[**設定エディタ**] アイコンをクリックします。
2. [PROENGINEER] セクションの隣にあるプラスサイン(+) をクリックします。リストは展開されて、このセクションと関連したオプションを示します。
3. ProEngineerExecutableName エントリをクリックします。
4. このエントリ設定の値を Pro/ENGINEER の起動に使用する実行ファイル名と等しくなるよう変更します。 通常、これは Pro/ENGINEER

がコンピュータで実行するためにどのように設定されかにより、PROE20 や Proe2000i2 のようになります。一般的には ProEngineerExecutableName エントリはコマンドプロンプトウィンドウから Pro/ENGINEER を実行するために必要な名前に設定されます。

注記: 正しく作業するためのインターフェイスが取れない場合、Pro/ENGINEER 実行ファイルの完全パス (C:\ ProgramFiles\Proe2000i2 . . . \Proe2000i2.bat など) を入力してみてください。

ProEngineer セクションで変更されたエントリは以下のようになります。

ProEngineerExecutableName=PROE20

または、

ProEngineerExecutableName=Proe2000i2

5. [**設定を保存**] をクリックしてから [**OK**] をクリックし、設定エディタを閉じます。

4: Pro/ENGINEER Direct CAD Interface のテスト

最後のステップとして PC-DMIS を実行し Pro/E ファイルをインポートします。

ProE DCI をテストするには以下のステップを完了します。

PC-DMIS の起動

1. [スタート] メニューより、[**プログラム | PC-DMIS for Windows | オンライン**] を選択します。PC-DMIS が起動します。以下と同じ手順に従い、PC-DMIS を**オフライン** モードで実行することにより、これを試験することもできます。
2. [**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れたらキャンセルします。

パーツプログラムの新規作成

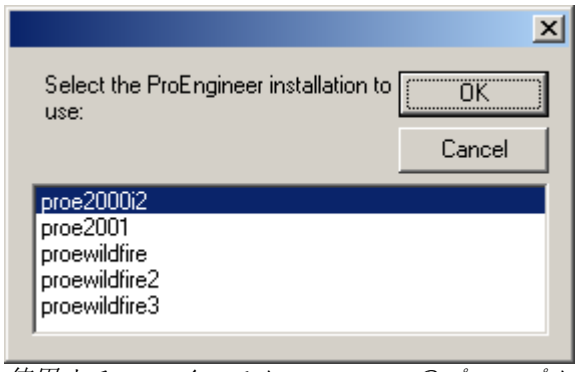
1. 新規パーツプログラムを作成するには [**ファイル | 新規作成**] を選択します。[**新規パーツプログラム**] ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**パーツ名**] ボックスにパーツプログラムの名前を入力し、必要ならばその他のボックスにも入力します。
3. [**測定単位**] エリアから測定の単位を選択します。これは、インポートする CAD ファイルで使用している単位と一致させる必要があります。
4. [**OK**]をクリックします。 このダイアログボックスが閉じ、[**プローブユーティリティ**] ダイアログ ボックスが開きます。
5. [**プローブ ユーティリティ**] ダイアログ ボックスの [**キャンセル**] ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
6. [**OK**]をクリックします。

必要に応じてプローブを校正します。プローブを校正しないと選択した場合、PC-DMIS はプローブが校正されていないことを伝えるメッセージを表示します。[**OK**] をクリックして続行します。

Pro/ENGINEER パートファイルのインポート ：

1. [**ファイル | Direct CAD Interfaces ® | Pro/ENGINEER**] メニューオプションを選択します。**開く** ダイアログ ボックスが現れます。
2. ダイアログ ボックスの右側にある [**ファイルの種類**] リストから、**Pro E ファイル**を選択します。
3. Pro/ENGINEER パーツ ファイルを含むディレクトリに進みます。

4. Pro/ENGINEER パートファイル (.prt または .asmの拡張子を持つもの) を選択します。
5. [インポート] をクリックします。ProEngineer のインストレーションをまだ指定していない場合、以下のダイアログボックスが表示されます。



使用する ProE インストレーションのプロンプト

6. [**OK**]をクリックします。PC-DMIS は指定した ProE インストレーションを使用して選択したファイルをインポートします。
7. IGES を使用してお好きなように PC-DMIS を使用してください。

注記: CAD システムに接続しないで DCI を使用したい場合は、`ProEngineerLoad` レジストリエントリを変更することでこれを簡単に指定できます。

手順は次のとおりです:

1. 設定エディタを開きます。
2. `[PROENGINEER]` セクションの隣にあるプラスサイン(+) をクリックします。リストが展開します。
3. `ProEngineerLoad` エントリの設定を `FALSE` に変更します。
4. 変更が終わったら設定エディタを保存して閉じます。

PC-DMIS は CAD システムに接続を試みることは行いませんが、代わりに保存した CAD ビューをロードするオプションを提供します。

I-DEAS ダイレクトCADインタフェース

- Windows NT、2000、または XP コンピュータにインストールする場合、完全な管理者権限を持っていることを確認してから続行してください。
- まだの場合は、I-DEAS マスターシリーズ 6a 以降を PC-DMIS が実行しているコンピュータに、またはリモートホストとしてネットワーク経由でアクセス可能な PC または UNIX コンピュータにインストールします。 I-DEAS にアクセスするコンピュータには少なくとも 1つの I-DEAS フリーライセンスを取得してください。

ステップ 1: PC-DMIS のインストール

はじめに、PC-DMIS をインストールする必要があります。PC-DMIS をインストールするには、以下の手順に従います。

1. PC-DMIS ポートロック (別名ドングル) を PC の適切なポートに差し込みます。
2. PC-DMIS CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。

3. Windows Explorer を使用し、CD-ROM のディレクトリを開いて PC-DMIS の**setup.exe** アプリケーションのディレクトリに移動します。
4. (実行)ファイル **setup.exe**をダブルクリックします。
5. これにより、PC-DMIS インストールシーケンスが起動します。
6. スクリーン上の手順に従い、PC-DMIS のインストールを完了させます。

これにより、PC-DMIS インストールが完了します。

ステップ 2: I-DEAS Direct CAD Interface のテスト

最後のステップとして PC-DMIS を実行し I-DEAS ファイルをインポートします。
I-DEAS DCI をテストするには以下のステップを完了します。

PC-DMIS の起動

1. [スタート] メニューより、[**プログラム | PC-DMIS for Windows | オンライン**] を選択します。PC-DMIS が起動します。以下と同じ手順に従い、PC-DMIS を**オフライン** モードで実行することにより、これを試験することもできます。
2. [**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れたらキャンセルします。

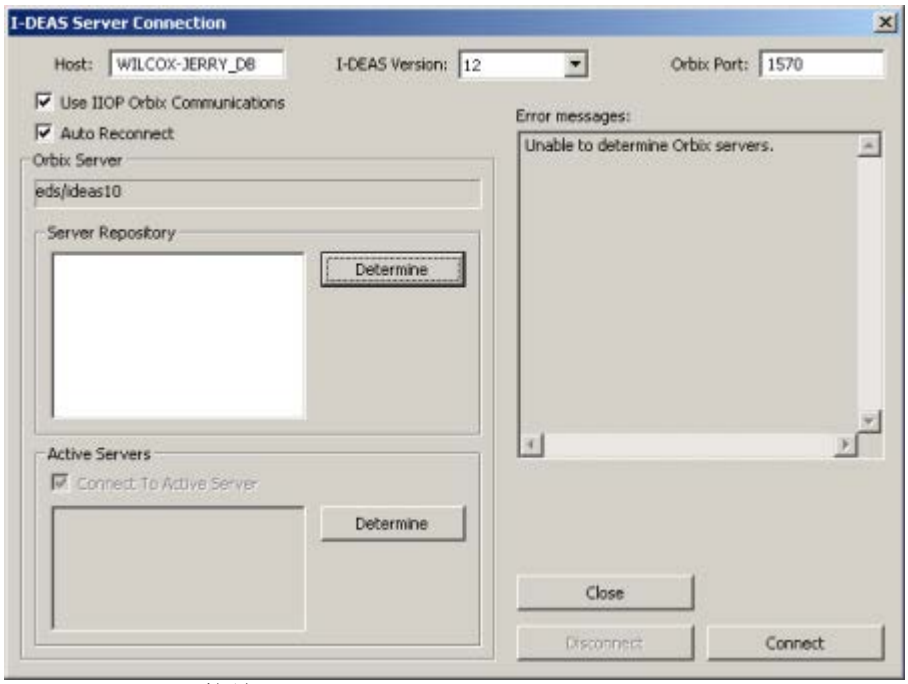
パーツプログラムの新規作成

1. 新規パーツプログラムを作成するには [**ファイル | 新規作成**] を選択します。[**新規パーツプログラム**] ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**パーツ名**] ボックスにパーツプログラムの名前を入力し、必要ならばその他のボックスにも入力します。
3. [**測定単位**] エリアから測定の単位を選択します。これは、インポートする CAD ファイルで使用している単位と一致させる必要があります。
4. [**OK**]をクリックします。 このダイアログボックスが閉じ、[**プローブユーティリティ**] ダイアログ ボックスが開きます。
5. [**プローブ ユーティリティ**] ダイアログ ボックスの [**キャンセル**] ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
6. [**OK**]をクリックします。

必要に応じてプローブを校正します。プローブを校正しないと選択した場合、PC-DMIS はプローブが校正されていないことを伝えるメッセージを表示します。[**OK**] をクリックして続行します。

I-DEAS CAD ファイルのインポート ：

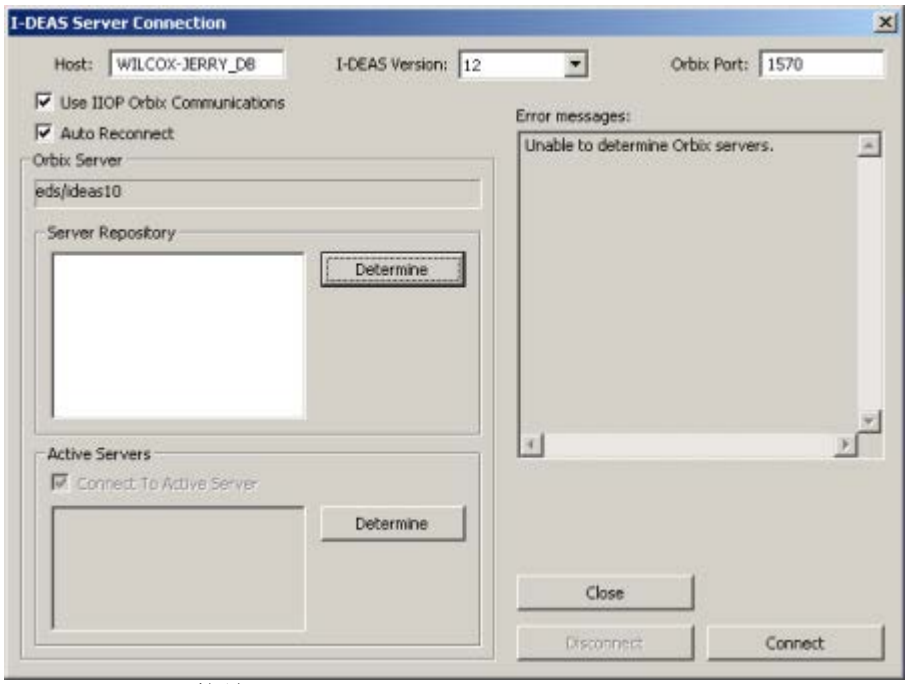
1. PC-DMIS バージョン 4.1 より、[**ファイル | Direct CAD Interfaces ® | I-DEAS**] メニューオプションを選択します。 [**I-DEAS サーバー接続**] ダイアログ ボックスが現れます。



[I-DEAS サーバー接続] ダイアログ ボックス

2. [**I-DEAS サーバー接続**] ダイアログ ボックスでは、PC-DMIS を I-DEAS サーバーへ接続できます。このダイアログ ボックスに関する詳細は「[I-DEAS サーバー接続] ダイアログボックスの使用」を参照してください。
3. I-DEAS サーバーとの接続が確立したら、[**I-DEAS 項目の選択**] ダイアログ ボックスよりインポートする項目を選択します。詳細は「[I-DEAS項目の選択] ダイアログ ボックスの使用」トピックを参照してください。
4. [**選択した項目をインポート**] ボタンをクリックします。
5. いつものようにPC-DMISを使用してください。

I-DEAS サーバー接続ダイアログ ボックスの使用



I-DEAS サーバー接続ダイアログ ボックス

I-DEAS サーバー接続 ダイアログ ボックスはPC-DMISのI-DEASサーバーに接続します。**接続** ボタンをクリックしてダイアログボックスに表示されている現在のオプションを使用してシステムをリンクすることができます。I-DEAS サーバーに接続した場合に、**切断** ボタンをクリックしてそれから抜いてください。オプションを変更して別のサーバーに接続できます。予期しない問題が発生した場合は、問題を説明するメッセージは、**エラーメッセージ** 領域に表示されます。

ホスト

ホスト ボックスはI-DEASプログラムが起動するネットワークにコンピュータを表示します。PC-DMISはI-DEASプログラムに接続します。

ホストのデフォルトはローカルコンピュータの名前です。ホストは以前に次の指定されていない場合に、PC - DMISは[**ホスト**]ボックスにデフォルトの名前が表示されます。ボックスの外にカーソルを移動して現在のホスト名を削除してTabキーを押すことによって、デフォルトのホスト名にアクセスすることができます。PC-DMISは自動的にローカルコンピュータのホスト名と**ホスト**ボックスに入力してします。

注記: リモートのI - ディーズサーバーに接続している場合には、リモートコンピュータのネットワーク名はコンピュータがPC - DMISを実行しているときに表示される必要があります。逆に、この同じコンピュータは、I-DEASサーバーでコンピュータから見えなければなりません。ネットワーク名（IPアドレスでない）を使ってそれを入力して検索することによって、コンピュータが見えるかどうかを調べることができます。コンピュータをpingする場合には、ネットワーク名はIPアドレスに解決できないし、このネットワーク名とIPアドレスをホストのネットワーク名のルックアップファイルに追加できます。

I-DEAS バージョン

[**I-DEAS バージョン**] リストからは、ホストの I-DEAS バージョンを選択できます。

Orbix ポート

[**Orbix ポート**] ボックスでは、ユーザーはサーバと通信するのに使用される TCP/IP ポートを入力できます。I-DEASはネットワークの上のアプリケーションの間の検索エンジンとして Orbix™ と呼ばれるソフトウェア製品を使用します。PC-DMISは、I-DEASサーバから情報を送って、受け取るのにOrbixを使用します。デフォルトで、I-DEASはOrbixコミュニケーションにネットワークの向こう側にTCP/IPポート1570を使用します。I-DEASがデフォルトポートを使用しないなら、あなたは、このオプションを使用することでポートを指定する必要があります。

Orbix 通信用に I-DEAS が使用するポートを決定するには、以下の手順に従います。

1. ホスト上のOrbixポートを決定できるコンピュータ上でI-DEASのセッションを起動します。
2. I-DEAS プロンプト ウィンドウより、以下のうちの1つを行ってコマンドウィンドウを開きます。
   - Unix システムで、**oaxx execute xterm**を入力してENTERを押します。
   - PCシステムで、**oaxx execute cmd.exe**を入力してENTERを押します。

I-DEAS プロンプト ウィンドウから PC のコマンド ウィンドウを開く

これは端末ウィンドウまたはDOSウィンドウを開き、ここでコマンドを入力できます。

3. コマンドウィンドウから、以下のコマンドを入力します：

```
orbixd -v
```

以下のような出力を表示されるはずです：

```
Orbix デーモンv3.0.1PATCH-11
s1474-3.0.1PATCH-11: Microsoft Visual C++上のAIX 4.3.2用Orbix Version v3.0.1PATCH-11
実装リポジトリのパス...
デーモンのポート :1570
デーモンのポートベース :1570
デーモンのポート範囲 :50
```

“Daemon Port” の右側にリスト表示されている 1570 の値は、使用する Orbix ポートです。この値は [**Orbix ポート**] ボックスの値と一致している必要があります。

orbixd –v コマンドを入力した時にエラーメッセージが表示される場合、バージョン 3.0 より前の Orbix では **–v** コマンドラインスイッチをサポートしないことを意味します。以下のコマンドを入力して Orbix ポートを決定する必要があります。

```
lsit –h yahoo.com
```

以下のようないくつかのメッセージを表示されるはずです：

```
[341: Retrying connection to host `yahoo.com' port 1570]
```

エラーメッセージに表示されるポートは使用する Orbix ポートです。

IIOP Orbix通信を使用する

I - DEAS
のサーバーコンピュータにインストールされているOrbixのバージョンに応じ、ネットワーク通信は、2つの異なる通信プロトコルのいずれかを使用します。

- *Orbixの3.0以上で*、ネットワーク通信はCORBAのInternet Inter - ORB Protocol（IIOP）を使用しています。
- *Orbix 3.0以前のバージョン*について、ネットワーク通信が非標準のOrbixの通信プロトコルを使用しています。

デフォルトで、I-DEAS 8はOrbixバージョン3.0でインストールされます。したがって、I-DEAS 8以上に接続する場合、IIOPプロトコルを使用するべきです。しかしながら、Orbixのバージョンがバージョン3.0より古いことを知っていれば、IIOPプロトコルを使用するべき*ではありません*。

注意: SGIかIBMコンピュータの上のI-DEAS8はネットワークコミュニケーションに通常、Orbix2.2を使用します。したがって、SGIかIBMコンピュータでI-DEAS8に接続していると、ユーザは、**Use IIOP Orbix Communications**がチェック・ボックスをオフにする必要があります。

自動再接続

このオプションを選択すると、接続が中断された場合に PC-DMIS が I-DEAS サーバーへの自動再接続を試みます。 I-DEAS DCI を使用する既存のパーツプログラムを開くか新規パーツプログラムを作成すると、PC-DMIS は自動的に I-DEAS サーバーへの接続を試みます。

Orbix 通信プロトコールを定義するには

次の手順を実行して、ホスト上のOrbixの通信プロトコルを決定できます：

1. ホスト上のOrbixの通信プロトコルを決定できるコンピュータ上でI-DEASを起動します。
2. **I-DEAS プロンプト** から、 コマンドウィンドウを開きます。
   - Unix システムで、**oaxx execute xterm**を入力してENTERを押します。
   - PCシステムで、**oaxx execute cmd.exe**を入力してENTERを押します。

I-DEAS プロンプト ウィンドウから PC のコマンド ウィンドウを開く

これは端末ウィンドウまたはDOSウィンドウを開き、ここでコマンドを入力できます。

3. コマンドウィンドウから、以下のコマンドを入力します：

```
orbixd -v
```

以下のような出力を表示されるはずです：

```
Orbix デーモンv3.0.1PATCH-11
s1474-3.0.1PATCH-11: Microsoft Visual C++上のAIX 4.3.2用Orbix Version v3.0.1PATCH-11
```

出力の最初の行はOrbixのバージョンが表示されます。この場合には、バージョン3.0.1です。

- *バージョンが3.0以上の場合は*、OrbixはIIOPプロトコルを使用しています。
- *バージョンが3.0未満の場合に*、 **orbixd –v** コマンド(バージョン3.0以前のOrbixのバージョンは**–v**コマンドラインスイッチをサポートしない)を入力する場合にエラーメッセージをとります。このような場合は、そのOrbixは非標準のOrbixのプロトコルを使用してPcdlrn.iniファイルで`OrbixIIOPProtocol`エントリーを 0 に設定する必要があります。

Orbixｻｰﾊﾞ

[**Orbix サーバー**] エリアを使用して PC-DMIS に I-DEAS サーバーへの接続方式を指示します。[**デフォルトを使用**] ボタンをクリックするとデフォルトの接続方式が使用できます。

I-DEAS サーバーは以下の 2 つの方法のうち一つを利用して接続できます。

方法 1:

PC-DMIS が、接続可能な I-DEAS セッションを開始します。これがデフォルトです。目的のサーバーがデフォルト以外の場合、[**決定**] ボタンをクリックすると PC-DMIS は [**サーバー レポジトリ**] エリアに利用可能なディレクトリとサーバーを表示します。

[サーバー レポジトリ] エリア

PC-DMIS がサーバーのレポジトリ ツリーを表示したら、I-DEAS のバージョンに対して正しいサーバーを選択します。

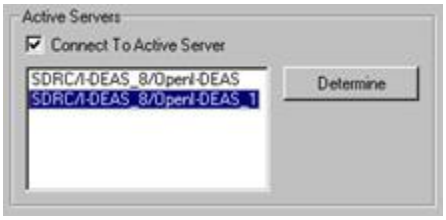
PC-DMIS が選択したサーバーの起動コマンドを解析し、I-DEAS を開始するコマンドを決定します。このコマンドを使用して、PC-DMIS に固有の起動コマンドオプションを持つ新しい一時サーバーが作成されます。

方法 2 :

PC-DMIS は既に実行中のアクティブな I-DEAS セッションに接続します。このアクティブなセッションはどのスタートアップ ダイアログより優先されなくてはなりません。アクティブな I-DEAS セッションに接続するには、[**アクティブなサーバーに接続**] チェックボックスを選択します。初めは、[**Orbix サーバー**] ボックスは空白です。この場合、PC-DMIS はホストにある任意のアクティブなサーバーへ接続を試みます。複数の I-DEAS セッションがアクティブな場合、これは予想外の結果をもたらすことがあります。

特定のアクティブなサーバーへ接続したい場合 :

1. [**決定**] ボタンを選択するとリストにアクティブな Orbix サーバーがすべて表示されます。



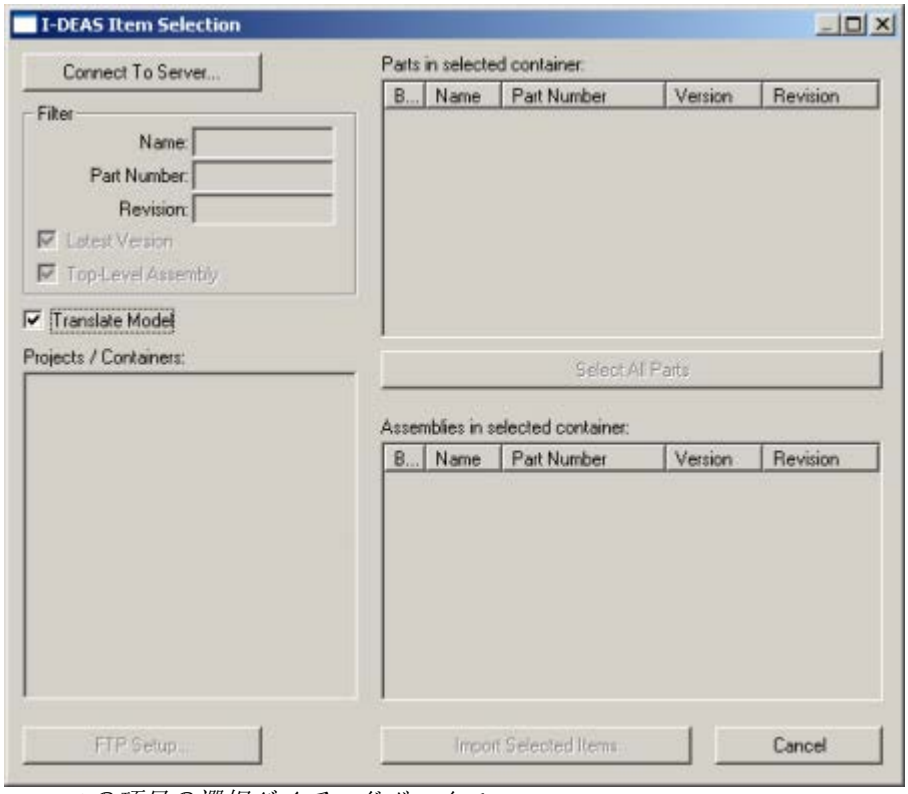
アクティブな Orbix サーバーのリスト表示例

2. 接続したいサーバーを選択します。

注記: 特定のアクティブな Orbix サーバーへ接続したい場合、パーツプログラムを開く度にサーバーを特定する必要があります。これにより、正しいサーバーへの接続が確保されます。

注記: Ford C3P バージョンの I-DEAS に接続する場合、 2 番目の方法を使用して I-DEAS サーバーに接続する必要があります。

I - DEASの項目の選択ダイアログボックスの使用



I - DEASの項目の選択ダイアログボックス

I-DEASアイテム選択ダイアログ・ボックスは、I-DEASモデル・ファイルあるいはライブラリからのアイテムの選択を許可します。PC-DMISはこのダイアログボックスをアクティブにするように、I-DEASのサーバに接続する必要があります。パートのプログラムに選択したアイテムをインポートするためには、**選択されたアイテムのインポート**ボタンをクリックします。

サーバーへ接続

[**サーバーへ接続**] ボタンをクリックして [**I-DEAS サーバー接続**] ダイアログボックスを開きます。I-DEAS サーバーへの接続に関する詳細は「[I-DEAS サーバー接続] ダイアログボックスの使用」を参照してください。

フィルター

このエリアでは表示するパーツおよびアセンブリをフィルターできます。プロジェクトに多数のパーツおよびアセンブリが存在する場合、表示する項目の数を最も適した項目数に減らすと便利です。この項目は [**名前**]、[**パーツ番号**]、および[**リビジョン**] でフィルタリング可能です。これらのフィルターでは、任意の文字の一致にアスタリスクを使用することができます。例えば、[名前] 編集フィールドに “block*” と入力した場合、 名前が “block”

から始まるすべての項目が表示されます。フィルターは大文字と小文字を区別しません。すなわち、“block*” と “Block*” では同じ結果が表示されます。

- **最新バージョン:**
  このオプションを選択すると最新バージョンのパーツおよびアセンブリのみが表示されます。このオプションを選択しない場合はすべてのバージョンが表示されます。
- **最上位アセンブリ:**
  このオプションを選択すると最上位のアセンブリのみが表示されます。このオプションを選択しない場合、最上位のアセンブリとそれに従属するアセンブリが表示されます。

変換ﾓﾃﾞﾙ

このオプションへの選択は、インポートされたファイルをネイティブPC - DMIS CAD形式にI - DEASの形式から変換させます。このオプションを使用する場合にはIDEASサーバーは必要ありません。

プロジェクト / コンテナ

[**プロジェクト / コンテナ**] リストには I-DEAS
データのインストールで利用可能なプロジェクトが表示されます。
プロジェクトを選択するとそのプロジェクトに含まれるモデルファイルとライブラリが表示されます。
プロジェクトのモデルファイルとライブラリが表示されたら、モデルファイルまたはライブラリを選択してパーツとアセンブリのリストを表示できます。

FTPの設定

[**FTP セットアップ**]ボタンをクリックすると [**I-DEAS FTP セットアップ**] ダイアログ ボックスが開きます。詳細は「[I-DEAS FTP セットアップ] ダイアログ ボックスの使用」トピックを参照してください。

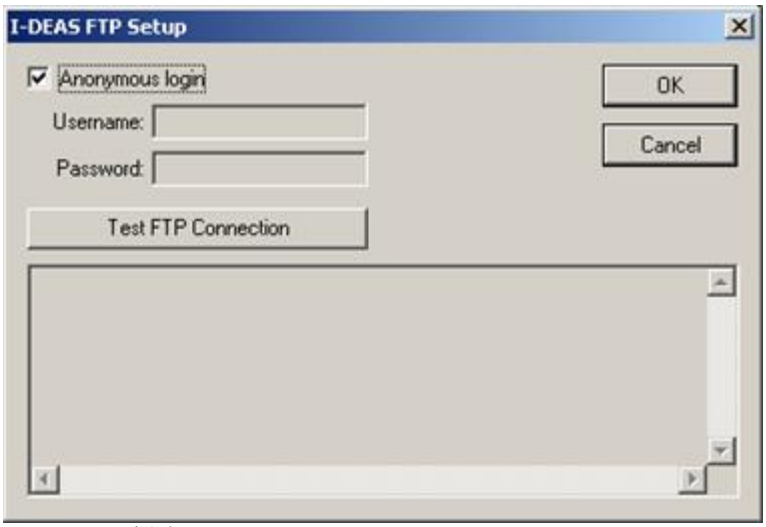
選択したコンテナファイルのパート

[**選択したコンテナファイルのパート**]
エリアには、選択したモデルファイルまたはライブラリで利用可能なパートの一覧が表示されます。複数のパートをインポート用に選択することができます。[**すべてのパートを選択**]
ボタンをクリックすると、すべてのパートの選択と選択解除が切り替わります。

選択したコンテナファイルのアセンブリ

[**選択したコンテナファイルのアセンブリ**]
エリアには、選択したモデルファイルまたはライブラリで利用可能なアセンブリの一覧が表示されます。同じパーツプログラムへインポートするために、複数のパートを選択して1つのアセンブリまで上に移動させることも可能です。

I-DEAS FTP 設定ダイアログ ボックスの使用



I-DEAS FTP 設定ダイアログ ボックス

I-DEAS FTP 設定 ダイアログ
ボックスでは、ファイル転送プロトコル（FTP）のオプションを設定し、テストのFTPの通信をI-DEASのサーバコンピュータとすることができます。リモートI-DEASのホストからのファイル転送の速度を向上させるためには、PC-DMISはFTPを使用しようとします。FTPサーバーはI-DEASのホスト上で使用できない場合は、通信プロトコルを介してファイルを転送速度の遅い方法が使用されます。この時間がかかる方法は約10倍のFTPを使用する場合よりも遅くなります。
PC-DMISが正常にI-DEASのホストへのFTP経由でファイルを転送することができるかを確認するには、チェックしなければならないいくつかの項目があります：

- FTPサーバーは、I-DEASのホスト上で実行する必要があります。ホストFTPにするためにコマンドプロンプト]ウィンドウを使用し、FTPサーバーは実行されているかどうかをチェックできます。
- I-DEASのスクラッチディレクトリからファイルを読み込み、FTPを使用して可能で*なければなりません*。コマンドプロンプトウィンドウをFTPを使用してこれを確認することができますし、I-DEASのスクラッチディレクトリからファイルを読み取るしてみてください。

I-DEASのスクラッチディレクトリを決定する手順は次のとおりです：

1. リモートホスト上のI-DEASのセッションから I-DEASのプロンプトウィンドウで次のコマンドを入力してください：

```
/ MA IDM
```

2. 上記のコマンドを入力した後、情報がI-DEASのリストウィンドウに表示されるはずです。リストウィンドウの下部に、何かを次のように表示されるはずです：

```
DataMgmt.ScratchDirectory:
(null) -> e:\users\Dragon\
```

->
の右側にあるテキストそこからFTPはファイルを読み取ることができなければならないディレクトリです。この例では、スクラッチディレクトリはe:\users\Dragon\です。

匿名でﾛｸﾞｲﾝ

匿名でログインしても読み出し/書き込みを許可する場合、このチェックボックスを選択します。匿名でログインした場合に読み出し/書き込みを許可しない場合、このチェックボックスを選択解除し、読み出し/書き込み権限を持つユーザー名とパスワードを指定します。

ユーザー名

匿名ログイン チェックボックスをオフにした場合、**ユーザー名**
ボックスが使用可能になり、入力されたユーザ名はログインして入力する必要があります。

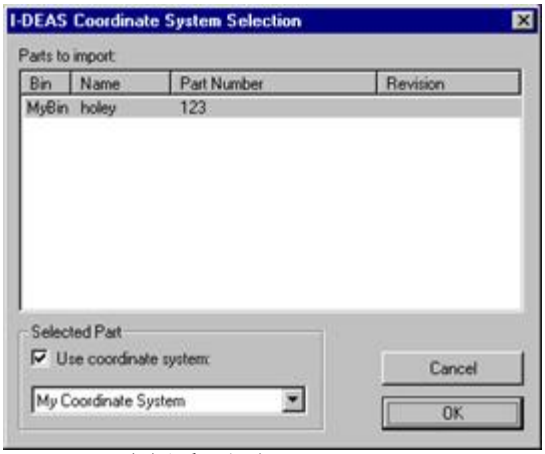
パスワード

このボックスにはユーザー名に対応するパスワードを入力します。[**匿名でログイン**]
チェックボックスを選択した場合、パスワードは必要ありません。

FTP接続のﾃｽﾄ

テストFTP 接続 ボタンをクリックしてI-DEAS
サーバーコンピュータにテストファイルを発送して受け入れます。PC-DMISはI-DEASスクラッチディレクトリにファイルを発送します。テストが完了すると、PC-DMISはディレクトリからテストファイルを削除します。テスト中に問題がある場合は、問題を説明するエラーメッセージが表示されます。それ以外の場合には、統計情報はI-DEASのサーバーコンピュータとの転送速度を示すとともに、成功を示すメッセージが表示されます。

I - DEASの座標系の選択ダイアログボックスの使用



I - DEASの座標系の選択ダイアログボックス

I-DEAS 座標系の選択

ダイアログボックスでは、インポートしたパーツのシステムの選択を調整することができます。**I-**

DEAS項の選択 ダイアログ ボックスからの **インポートした選択項**をクリックした後に、このダイアログボックスが開きます。

注記:
このダイアログボックスは、複数の座標系が輸入部品のいずれかの利用可能な場合にのみ表示されます。

パーツ座標系への変更をクリックした後 **OK** をクリックして変更を受け入れます。**キャンセル** をクリックして変更を破棄します。

インポートするパート

[**インポートするパート**] リストには PC-DMIS がインポートするパートが表示されます。
座標系のオプションを変更したいパートをそれぞれ選択します。

注記:
アセンブリをインポートする場合、アセンブリはそれに関連付けられた座標系を持たないためリストに表示されません。

選択済みのパート

[**選択済みのパート**]
エリアには選択したパートに対して使用される座標系が表示されます。ドロップダウンリストより必要な座標系を一つ選択します。パートに対して座標系を使用したくない場合、[**座標系を使用**] チェックボックスをオフにします。

I-DEAS バージョン 10 以降の Direct CAD Interface

I-DEAS 10 以降では新バージョンの Orbix、OrbixE2A を使用してクライアントプログラムと I-DEAS 間の通信が行われます。
OrbixE2A では、 もはや PC-DMIS は接続時に新しい I-DEAS セッションを開始することはでません。PC-DMIS ができることは、手動で I-DEAS セッションを開始するために接続することのみです。最新バージョンのOrbix では、 I-DEAS を販売している Electronic Data Systems Corporation (EDS) 社は、クライアントプログラムは I-DEAS 環境の外から I-DEAS 10 に接続するものと考えています。また、プログラムは I-DEAS 内部より起動されるものと仮定しています。
EDS はこの問題にほとんど対処していないため、I-DEAS 10 以降を PC-DMIS と共に使用するためには以下のセットアップ手順を一度実行する必要があります。

注記: これらのステップで、「*PC-DMIS PC*」とはPC-DMIS が存在するコンピュータを意味し「*I-DEAS コンピュータ*」とは I-DEAS 10 が存在するコンピュータを意味します。 I-DEAS プログラムは PC-DMIS と同じコンピュータ上に存在することも存在しないこともあります。

続行する前に、I-DEAS 10 がコンピュータ内に存在するか確認します。

I-DEAS のリモート設定

- I-IDEAS と PC-DMIS PC が違うコンピュータにある場合は、以下のステップを実行します。
- I-DEAS と PC-DMIS PC が同じコンピュータにある場合は、「全ての I-DEAS 構成に共通するセットアップ」に記載のステップのみ実行します。

ステップ 1: Java 2 の PC-DMIS PC へのインストール

UNIX インストールディスクしかお持ちでない場合、Windows 2000/XP 用インストールディスクのコピーを入手できます。Windows 2000/XP 用イントールディスクのコピーを入手するには EDS (www.eds.com) までお問い合わせください。

1. Windows 2000/XP 用の I-DEAS インストールディスクを入手します。
2. I-DEAS インストールディスク 1 を PC-DMIS PC に挿入します。
3. Java 2 (1.3.1_4) 開発環境用のインストーラを選択します。I-DEAS バージョン10 以降では、Java のバージョンが異なる場合があります。
4. その他スクリーン上の手順に従って下さい。

ステップ 2: OrbixE2A の PC-DMIS PC へのインストール

1. I-DEAS インストールディスク 1 を PC-DMIS PC に挿入します。
2. **I-DEAS 10 NX Series** のインストーラを選択します。I-DEAS バージョン10 以降では、バージョン番号が異なる場合があります。
3. [**セットアップの種類**] ダイアログ ボックスが現れるまで画面の指示に従います。
4. ['**セットアップの種類**] ダイアログ ボックスで、**ソフトウェアのインストールのみ**を選択します。
5. [**ユーザー情報**] ダイアログ ボックスより、I-DEAS をコンピュータにインストールした際に使用したインストール番号を入力します。
6. [**ライセンスファイルの選択**] ダイアログ ボックスより、**セットアップ完了後にライセンスを手動で設定** を選択します。
7. [**コンポーネントの選択**] ダイアログ ボックスより、[**A001 Core Master Modeler**] チェックボックスを選択します。その他のオプションは全てオフにします。
8. その他スクリーン上の手順に従い、インストールのプロセスを完了します。

ステップ 3: セットアップに共通するステップの実行

現時点では、「全ての I-DEAS
構成に共通するセットアップ」に記載されるステップに従ってください。これらのステップが終了したら、「ステップ 4: リモートコンピュータから MyDomain.cfg を PC-DMIS PC へコピー」へ進みます。

ステップ 4: リモートコンピュータから MyDomain.cfg を PC-DMIS PC へコピー

1. リモートコンピュータで MyDomain.cfg ファイルの位置を見つけます。PC システムでは、このファイルのデフォルト位置は c:\EDS\I-DEAS10\Iona\OrbixE2A\etc\domains ディレクトリです。UNIX システムでも、このファイルは同様のディレクトリにあります。
2. リモートコンピュータから MyDomain.cfg ファイルを PC-DMIS PC 内の対応するディレクトリにコピーします。このディレクトリは「ステップ 2: IT_CONFIG_DOMAINS_DIR を PC-DMIS PC 環境変数へ追加」で環境変数 IT_CONFIG_DOMAINS_DIR に対して入力した値と同じになります。

MyDomain.cfg は ASCII 形式のファイルであるため、このファイルを UNIX システムから PC-DMIS PC へコピーする際に改行キーのフォーマットに関する問題が起こる可能性があります。
これを解決するために、UNIX システムでは以下のように UNIX ASCII テキストファイルを変換する際に役立つ **unix2dos** コマンドラインユーティリティが用意されており、これによって Windows システムでも正しくファイルを読み込むことができます。

```
unix2dos <既存の unix ファイル名> <新規 windows ファイル名>
```

最初の引数は変換前のファイル名であり、2番目の引数はファイル変換後のコピーに付ける名前です。

全ての I-DEAS 構成に共通するセットアップ

- I-DEAS と PC-DMIS PC が同じコンピュータからアクセスされる場合は、以下のステップのみ実行します。
- I-IDEAS と PC-DMIS PC が違うコンピュータからアクセスされる場合は、「リモート I-DEAS セットアップ」のステップのみ実行します。

ステップ 1: “Startup.InitOI: 1” を ideas_param10.dat ファイルへ追加

“Startup.InitOI: 1” を ideas_param10.dat ファイルに追加すると、I-DEAS はスタートアップ時に直ちに Orbix サーバー名を作成します。この行を追加しないと、スタートアップ後未定の時間が経過するまで I-DEAS 10 はサーバー名の作成を遅らせます。サーバー名を作成しないと、PC-DMIS は I-DEAS に接続できません。

注記: .dat ファイルの名前は I-DEAS バージョン 10 以外では多少異なります。例えば、I-DEAS 11の .dat ファイルではideas_param11.dat となります。

1. I-DEAS コンピュータより、ideas_param10.dat ファイルを見つけます。デフォルトでは、このファイルは Windows システムの c:\Team\Master\Config ディレクトリにあります。UNIX システムでもこのファイルは同様のディレクトリ下にあります。
2. テキストエディタを使用して ideas_param10.dat ファイルを開きます。
3. ファイルの最後に以下の行を入力します:

```
Startup.InitOI: 1
```

このテキストはファイルに既に含まれているかもしれませんが、コメントアウトされていることがあります。 ファイルの `Startup.InitOI`
の場所を検索し、それが見つかりファイルの最後にこの行を追加する必要がない場合は、単にテキストの前にあるコメントアウトの記号を削除します。

ステップ 2: IT_CONFIG_DOMAINS_DIR を PC-DMIS PC 環境変数へ追加

環境変数 IT_CONFIG_DOMAINS_DIR は PC-DMIS PC の Orbix
ドメインディレクトリに設定する必要があります。

1. [**スタート**] メニューより、[**設定 | コントロールパネル**]
を選択します。コントロールパネルが表示されます。
2. [**システム**] アイコンをダブルクリックします。**[システム プロパティ]** ダイアログ
ボックスが表示されます。
3. [**詳細設定**] タブを選択して [**環境変数**] ボタンをクリックします。 [**環境変数]** ダイアログ
ボックスが表示されます。
4. [**システム変数**] エリアより、[**新規**] ボタンをクリックします。
5. [**変数名**] ボックスに以下のように入力します: `IT_CONFIG_DOMAINS_DIR`。
6. [**変数の値**] ボックス値を PC-DMIS PC の Iona\OrbixE2A\etc\domains
ディレクトリに設定します。デフォルトではこのディレクトリは `c:\EDS\I-DEAS10\Iona\OrbixE2A\etc\domains` となっています。
7. **[OK]** ボタンをクリックして新しい変数を作成します。
8. [**システム プロパティ**] ダイアログ ボックスが閉じられるまで [**OK**]
ボタンをクリックします。

ステップ 3: IT_DOMAIN_NAME を PC-DMIS PC 環境変数へ追加

環境変数 IT_ DOMAIN_NAME は I-DEAS によって作成されたドメイン名に設定する必要があります。

1. [**スタート**] メニューより、[**設定 | コントロールパネル**]
を選択します。コントロールパネルが表示されます。
2. [**システム**] アイコンをダブルクリックします。**[システム プロパティ]** ダイアログ
ボックスが表示されます。
3. [**詳細設定**] タブを選択して [**環境変数**] ボタンをクリックします。 [**環境変数]** ダイアログ
ボックスが表示されます。
4. [**システム変数**] エリアより、[**新規**] ボタンをクリックします。
5. [**変数名**] ボックスに以下のように入力します:
`IT_DOMAIN_NAME`。
6. [**変数の値**] ボックスに以下のように入力します:
`MyDomain`。
7. **[OK]** ボタンをクリックして新しい変数を作成します。
8. [**システム プロパティ**] ダイアログ ボックスが閉じられるまで [**OK**]
ボタンをクリックします。

ステップ 4: I-DEAS コンピュータで I-DEAS セッションを開始

I-DEAS 10 の開始時に、PC-DMIS ができることは、I-DEAS
セッションをアクティブにするために接続することのみです。PC-DMIS を使用して I-DEAS
に接続する前に、I-DEAS コンピュータで I-DEAS
セッションを開始します。開始モデルファイルは重要ではありませんが、I-DEAS
はグラフィック画面を表示するはずです。

ACIS ダイレクトCADインタフェース

このセクションの手順に従って PC-DMIS をインストール し、お使いのシステムが ACIS Direct CAD Interface を使用できるよう設定します。

Windows NT

コンピュータにインストールする場合、完全な管理者権限を持っているか確認してから続行してください。

ステップ 1: PC-DMIS のインストール

PC-DMIS 3.2 以降のインストールセットアッププログラムは Path 環境変数に複数の DLL を取り、ACIS CADファイルへの直接リンクを可能にします。PC-DMIS
をインストールするには、以下の手順に従います。

1. PC-DMIS ポートロック (別名ドングル) を PC のプリンタ用ポートに差し込みます。
2. PC-DMIS CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
3. Windows Explorer を使用し、CD-ROM のディレクトリを開いて PC-DMIS の**setup.exe** アプリケーションのディレクトリに移動します。
4. **setup.exe** (実行) ファイルをダブルクリックします。
5. これにより、PC-DMIS インストールシーケンスが起動します。
6. スクリーン上の手順に従って下さい。
7. インストールの最後に、**スタートアップ アイコン**が含まれた**PC-DMIS for Windows** プログラムグループが現れます 。
8. このアイコンをダブルクリックし、しばらく待ちます。PC-DMIS が現時点のポートロック設定を確認します。
9. ここで、**PC-DMIS for Windows** プログラムグループに新しいアイコンが表示されるはずです。

これらには以下のものが含まれます: **オフライン**、**アンインストール**、および**ヘルプ**。
これにより、PC-DMIS インストールが完了します。

ステップ 2: ACIS Direct CAD Interface のテスト

ACIS Direct CAD Interface をテストするには以下の手順に従います。

PC-DMIS の起動

1. [スタート] メニューより、[**プログラム | PC-DMIS for Windows | オンライン**] を選択します。PC-DMIS が起動します。以下と同じ手順に従い、PC-DMIS を**オフライン** モードで実行することにより、これを試験することもできます。
2. [**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れたらキャンセルします。

パーツプログラムの新規作成

1. 新規パーツプログラムを作成するには [**ファイル | 新規作成**] を選択します。[**新規パーツプログラム**] ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**パーツ名**] ボックスにパーツプログラムの名前を入力し、必要ならばその他のボックスにも入力します。
3. [**測定単位**] エリアから測定の単位を選択します。これは、インポートする CAD ファイルで使用している単位と一致させる必要があります。
4. [**OK**]をクリックします。 このダイアログボックスが閉じ、[**プローブユーティリティ**] ダイアログ ボックスが開きます。
5. [**プローブ ユーティリティ**] ダイアログ ボックスの [**キャンセル**] ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
6. [**OK**]をクリックします。

必要に応じてプローブを校正します。プローブを校正しないと選択した場合、PC-DMIS はプローブが校正されていないことを伝えるメッセージを表示します。[**OK**] をクリックして続行します。

ACIS パートファイルのインポート

1. [ファイル | **Direct CAD Interfaces ® | PC-DMIS**] メニューオプションを選択します。
[開く]ダイアログ ボックスが現れます。
2. [ファイルの種類] リストから、**ACIS Files** を選択します。
3. インポートする ACIS ファイルがあるディレクトリに進みます。
4. ACIS パート (.sat または .sab の拡張子を持つもの) を選択します。
5. インポートをクリックして下さい。 このダイアログボックスを閉じます。
6. PC-DMIS は選択したファイルをインポートします。
7. いつものようにPC-DMISを使用してください。

SolidWorks Direct CAD Interface

このセクションの手順に従って PC-DMIS をインストール し、お使いのシステムが SolidWorks Direct CAD Interface を使用できるよう設定します。

注記: PC-DMIS および PC-DMIS Planner では、SolidWorks はビットワイズ対応の PC にのみインストール可能です。 お使いのシステムで SolidWorks のバージョンが正しいか確認してください。
たとえばインストールしようとしているPCが32ビットマシンである場合、SolidWorks のバージョンも32ビット版である必要があります。

- 先に進む前に、完全な管理者権限を持っていることを確認します。
- まだの場合は、PC-DMIS を実行するコンピュータに SolidWorks (「サポートする CAD システム」のトピックを参照してください) をインストールします。 PC-DMIS がSolidWorks とインターフェイスを取れるようにするため、SolidWorks はローカルマシンで実行する必要があります。
基本ライセンスを保有している必要があります、*そうでない場合*は、SolidWorks より購入することができます (http://www.solidworks.com を参照してください)。

ステップ 1: PC-DMIS のインストール

はじめに、PC-DMIS をインストールする必要があります。PC-DMIS をインストールするには、以下の手順に従います。

1. PC-DMIS ポートロック (別名ドングル) を PC の適切なポートに差し込みます。
2. PC-DMIS CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
3. Windows Explorer を使用し、CD-ROM のディレクトリを開いて PC-DMIS の**setup.exe** アプリケーションのディレクトリに移動します。
4. (実行)ファイル **setup.exe**をダブルクリックします。
5. これにより、PC-DMIS インストールシーケンスが起動します。
6. スクリーン上の手順に従い、PC-DMIS のインストールを完了させます。

これにより、PC-DMIS インストールが完了します。

ステップ 2: SolidWorks Direct CAD Interface のテスト

この最終ステップでは SolidWorks パートファイルをインポートして Direct CAD Interface をテストします。SolidWorks DCI をテストするには以下のステップに従います。

PC-DMIS の起動

1. [スタート] メニューより、[**プログラム | PC-DMIS for Windows | オンライン**] を選択します。PC-DMIS が起動します。以下と同じ手順に従い、PC-DMIS を**オフライン** モードで実行することにより、これを試験することもできます。
2. [**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れたらキャンセルします。

パーツプログラムの新規作成

1. 新規パーツプログラムを作成するには [**ファイル | 新規作成**] を選択します。[**新規パーツプログラム**] ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**パーツ名**] ボックスにパーツプログラムの名前を入力し、必要ならばその他のボックスにも入力します。
3. [**測定単位**] エリアから測定の単位を選択します。これは、インポートする CAD ファイルで使用している単位と一致させる必要があります。
4. [**OK**]をクリックします。 このダイアログボックスが閉じ、[**プローブユーティリティ**] ダイアログ ボックスが開きます。
5. [**プローブ ユーティリティ**] ダイアログ ボックスの [**キャンセル**] ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
6. [**OK**]をクリックします。

必要に応じてプローブを校正します。プローブを校正しないと選択した場合、PC-DMIS はプローブが校正されていないことを伝えるメッセージを表示します。[**OK**] をクリックして続行します。

SolidWorks パートファイルのインポート

注記: SolidWorks パートを PC-DMIS にインポートすると、PC-DMIS は SolidWorks パートファイルに属性を作成します。 これらの属性は PC-DMIS がインポート済みの CAD オブジェクトと元の SolidWorks オブジェクトに対応させるために必要です。

1. [**ファイル | Direct CAD Interfaces ® | SolidWorks**] メニューオプションを選択します。[**開く**]ダイアログ ボックスが現れます。
2. [**ファイルの種類**] リストから、**SolidWorks DCI**を選択します。
3. インポートする SolidWorks ファイルがあるディレクトリに進みます。
4. SolidWorks パートファイル (.SLDPRT または .SLDASM の拡張子を持つもの) を選択します。
5. インポート**をクリックします**。 このダイアログボックスが閉じます。
6. PC-DMIS は選択したファイルをインポートします。
7. いつものようにPC-DMISを使用してください。

高度なレジストリオプションの設定: はじめに

この章では上級ユーザーが PC-DMIS 設定エディターで特定のオプションを設定して、Direct CAD Interface をさらにカスタマイズできるよう説明します。
設定エディタで DCI の値を編集するには:

1. [**スタート | プログラムファイル | PC-DMIS for Windows**] を選択し、[**設定エディタ**] をクリックします。設定エディタが起動します。
2. 必要なセクションのファイル (Ideas, Unigraphics, SolidWorks, ProEngineer, AIMS, または Option) を見つけて、セクションの隣にあるプラス (+) 記号をクリックします。
リストが展開されます。
3. 必要なエントリを見つけて新しい値に置き換えます。
4. **[設定を変更]** をクリックして変更を保存します。
5. [**OK**] をクリックして設定エディタを閉じます。

注記: PC-DMIS バージョン 3.5 より前では、これらの値のために pcdlrn.ini ファイルが使用されていました。

I-DEAS オプション

このトピックでは上級ユーザーが PC-DMIS と I-DEAS との間のインターフェイスをさらにカスタマイズできるよう、追加のレジストリエントリについて説明します。
以下のエントリが含まれています。

Note: 通常は、I-DEAS を搭載した PC-DMIS を正常に動作させるのにこれらのエントリを使用する必要はありません。

これらのエントリは PC-DMIS ユーザー インターフェイスから制御されます (「I-DEAS Direct CAD Interface」を参照してください)。

警告:
レジストリが不当に編集されると、コンピュータ・システムが破損される危険があります。この理由で、弊社はPC-DMIS設定エディタを供給します。私たちは、ユーザがPC-DMISで設定を変えるのにこのアプリケーションを使用することを提案します。しかしながら、直接登録を編集すると決めるなら、登録への変更を行う前に、必ずコンピュータの上の重要なデータのバックアップをとってください。

AutoConnect入力の使用

このオプションがTrueに設定されている場合は、PC- DMISは、接続が失われた時に、自動的にI - DEASのサーバーに再接続しようとします。
True/False
値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ConnectActiveServer入力の使用

通常は、PC- DMISでI - DEASのパーツプログラムを開くときにI - DEASのセッションが指定されたホスト上で起動されます。PC- DMISをシャットダウンする場合に、I- DEASのセッションを終了します。

I-DEASの新しいセッションを起動する変わりに、この動作をカスタマイズできますし、 PC-DMISは指定されたホスト上のI-DEASのアクティブなセッションに接続し、PC-DMISを終了するときにI - DEASのセッションは開いたままになります。
数値が1 (On)に設定する場合に、PC-DMISはアクティブなI- DEASのセッションに接続します。

注記: ConnectActiveServer=1の場合に、サーバ エントリー(" サーバ エントリーの使用"に説明される) は無視されます。

PC-DMISを開始する前に、手動でホスト上でI-DEASを起動します。I-DEASを開始している場合に、*マスターモデラー モード*で開始するのを確認してください。I-DEASがメインのグラフィックにある限りに、すべてのモデルファイルを使用して起動することができます。PC- DMISでI - DEASのパーツプログラムを開くときに、またはパーツプログラムにI-DEASモデルをインポートする場合に、PC-DMISはホストで実行されているI-DEASのアクティブなセッションを検索します。

注記: PC-DMIS 常にホスト上で最初に使用可能なI - DEASのセッションでインターフェイスします。ホスト上で I-DEAS の複数のセッションを実行する場合に、PC-DMIS は I-DEASの意図しないセッションとのインタフェース起動することがあります。

On/Off
値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

FtpUserName とFtpPassWord エントリーの使用

リモートI - DEASのホストからのファイル転送の速度を向上させるためには、PC - DMISはファイル転送プロトコル(FTP)を使用しようとします。FTPサーバーはI - DEASのホスト上で使用できない場合は、通信プロトコルを介してファイルを転送速度の遅い方法が使用されます。この時間がかかる方法は約10倍のFTPを使用する場合よりも遅くなります。
PC-DMISが正常にI - DEASのホストへのFTP経由でファイルを転送することができるかを確認するには、チェックしなければならないいくつかの項目があります:

- FTPサーバーは、I - DEASのホスト上で実行する必要があります。ホストFTPにするためにコマンドプロンプト]ウィンドウを使用し、FTPサーバーは実行されているかどうかをチェックできます。
- I - DEASのスクラッチディレクトリからファイルを読み込み、FTPを使用して可能で*なければなりません*。コマンドプロンプトウィンドウをFTPを使用してこれを確認することができますし、I - DEASのスクラッチディレクトリからファイルを読み取るしてみてください。

I - DEASのスクラッチディレクトリを決定する手順は次のとおりです:

1. リモートホスト上のI- DEASのセッションから I-DEAS のプロンプトウィンドウで次のコマンドを入力してください:

```
/ MA IDM
```

2. 上記のコマンドを入力した後、情報がI - DEASのリストウィンドウに表示されるはずです。リストウィンドウの下部に、何かを次のように表示されるはずです:

DataMgmt.ScratchDirectory:
(null) -> e:\users\Dragon\
->
の右側にあるテキストそこからFTPはファイルを読み取ることができなければならないディレクトリです。この例では、スクラッチディレクトリはe:\users\Dragon\です。
デフォルトでは、PC- DMISはI - DEASのホストへの匿名FTPログインを試みます。匿名ユーザーはI - DEASのスクラッチディレクトリからファイルを読み取ることができない場合に、FtpUserNameとFtpPassWord
を使用してFTPログインに使用するユーザー名とパスワードを指定します。値は大文字と小文字が区別されていることに注意してください。
これらの文字列値が設定エディタの [アイデア]
セクションに配置されています。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

Host入力の使用

ホスト ボックスはI-DEASプログラムが起動するネットワークにコンピュータを表示します。PC-DMISはI-DEASプログラムに接続します。
ホストのデフォルトはローカルコンピュータの名前です。ホストは以前に次の指定されていない場合に、PC - DMISは[
ホスト]ボックスにデフォルトの名前が表示されます。ボックスの外にカーソルを移動して現在のホスト名を削除してTabキーを押すことによって、デフォルトのホスト名にアクセスすることができます。PC-DMISは自動的にローカルコンピュータのホスト名と**ホスト**ボックスに入力してします。
文字列値が設定エディタの [アイデア]
セクションに配置されています。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

注記: リモートのI - ディーズサーバーに接続している場合には、リモートコンピュータのネットワーク名はコンピュータがPC - DMISを実行しているときに表示される必要があります。逆に、この同じコンピュータは、I-DEASサーバーでコンピュータから見えなければなりません。ネットワーク名（IPアドレスでない）を使ってそれを入力して検索することによって、コンピュータが見えるかどうかを調べることができます。コンピュータをpingする場合には、ネットワーク名はIPアドレスに解決できないし、このネットワーク名とIPアドレスをホストのネットワーク名のルックアップファイルに追加できます。

OrbixIIOPProtocol エントリの使用

I - DEAS
のサーバーコンピュータにインストールされているOrbixのバージョンに応じ、ネットワーク通信は、2つの異なる通信プロトコルのいずれかを使用します。

- *Orbixの3.0以上*で、ネットワーク通信はCORBAのInternet Inter - ORB Protocol（IIOP）を使用しています。
- *Orbix 3.0以前のバージョン*について、ネットワーク通信が非標準のOrbixの通信プロトコルを使用しています。

デフォルトで、I-DEAS8以上と接続している場合は、IIOPプロトコルが使用されていますが、設定エディタで`OrbixIIOPProtocol`エントリを使用して通信プロトコルをオーバーライドすることができます

I-DEAS MS7およびI-DEAS MS6Aは非標準のOrbixプロトコルだけを使用することができます。したがって、I-DEAS MS7あるいはI-DEAS MS6Aに接続する場合、`OrbixIIOPProtocol`エントリーは無視されます。

注意: SGIかIBMコンピュータの上のI-DEAS8はネットワークコミュニケーションに通常、Orbix2.2を使用します。したがって、SGIかIBMコンピュータでI-DEAS8に接続していると、ユーザはPcdlrn.ini ファイルに `OrbixIIOPProtocol=0` エントリを追加する必要があります。

この値は1（ON）に設定されている場合、OrbixはIIOP通信を使用します。それ以外の場合は、この値は0（オフ）に設定されている時にOrbixは非標準のOrbixのプロトコルを使用します。

On/Off

値は設定エディタの`[Ideas]`セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

Orbix 通信プロトコールを定義するには

次の手順を実行して、ホスト上のOrbixの通信プロトコルを決定できます：

1. ホスト上のOrbixの通信プロトコルを決定できるコンピュータ上でI-DEASを起動します。
2. **I-DEAS プロンプト** から、 コマンドウィンドウを開きます。
   - Unix システムで、**oaxx execute xterm**を入力してENTERを押します。
   - PCシステムで、**oaxx execute cmd.exe**を入力してENTERを押します。

I-DEAS プロンプト ウィンドウから PC のコマンド ウィンドウを開く

これは端末ウィンドウまたはDOSウィンドウを開き、ここでコマンドを入力できます。

3. コマンドウィンドウから、以下のコマンドを入力します：

```
orbixd -v
```

以下のような出力を表示されるはずです：

```
Orbix デーモンv3.0.1PATCH-11
s1474-3.0.1PATCH-11: Microsoft Visual C++上のAIX 4.3.2用Orbix Version v3.0.1PATCH-11
```

出力の最初の行はOrbixのバージョンが表示されます。この場合には、バージョン3.0.1です。

- *バージョンが3.0以上の場合は*、OrbixはIIOPプロトコルを使用しています。
- *バージョンが3.0未満の場合に*、 **orbixd –v** コマンド(バージョン3.0以前のOrbixのバージョンは**–v**コマンドラインスイッチをサポートしない)を入力する場合にエラーメッセージをとります。このような場合は、そのOrbixは非標準のOrbixのプロトコルを使用して`OrbixIIOPProtocol`エントリーを 0 に設定する必要があります。

OrbixPort入力の使用

I-DEAS
はネットワークの上のアプリケーションの間の検索代行業者としてOrbixと呼ばれるソフトウェア製品を使用します。PC-DMISは、I-
DEASサーバから情報を送って、受け取るのにOrbix™を使用します。デフォルトで、I-
DEASはOrbixコミュニケーションにネットワークの向こう側にTCP/IPポート1570を使用します。I-
DEASはデフォルトのポートを使用していない場合に、 PC - DMIS設定エディタで`OrbixPort`
エントリを使用してポートを指定する必要があります。
ポート値は設定エディタの`[Ideas]`セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

Orbix ポートを定義するには

以下でI-DEASが通信プロトコルに使用するポートを決定できます:

1. ホスト上のOrbixポートを決定できるコンピュータ上でI-DEASのセッションを起動します。
2. **I-DEAS プロンプト**
ウィンドウから、以下のいずれかをしてコマンドウィンドウを開きます。
   - Unix システムで、**oaxx execute xterm**を入力してENTERを押します。
   - PCシステムで、**oaxx execute cmd.exe**を入力してENTERを押します。

I-DEAS プロンプト ウィンドウから PC のコマンド ウィンドウを開く

これは端末ウィンドウまたはDOSウィンドウを開き、ここでコマンドを入力できます。

3. コマンドウィンドウから、以下のコマンドを入力します:

```
orbixd -v
```

以下のような出力を表示されるはずです:

```
Orbix デーモンv3.0.1PATCH-11
s1474-3.0.1PATCH-11: Microsoft Visual C++上のAIX 4.3.2用Orbix Version v3.0.1PATCH-11
実装リポジトリのパス...
デーモンのポート :1570
デーモンのポートベース :1570
デーモンのポート範囲 :50
```

「`Daemon`
ポート」の右にリストされた1570値は使用する必要があるOrbixのポートです。1570ではない場合には、ポート番号で`OrbixPort` エントリーを編集する必要があります。
`orbixd –v` コマンドを入力するときにエラーメッセージを取る場合に、Orbix versionバージョンが3.0未満で、**–v**
コマンドラインスイッチをサポートしません。Orbixのポートを決定するために次のコマンドを入力する必要があります:

```
list –h yahoo.com
```

以下のようないくつかのメッセージを表示されるはずです:

[341: Retrying connection to host `yahoo.com' port 1570]
エラーメッセージに表示されているポートは使用する必要があるOrbixのポートです。

Server入力の使用

I - DEASのサーバーに接続する場合は、PC - DMISはI-DEASのスタートアップスクリプトを決定するためにOrbixのOpenDesignサーバーにある起動コマンドを解析します。通常は、Orbixのリポジトリのディレクトリに OpenDesignサーバー用のPC - DMISを検索します。このディレクトリの場所は、バージョンによって異なります。
この表を参考にして下さい:

ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ	ﾃﾞﾌｫﾙﾄﾘﾎﾟｼﾞﾄﾘﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ
MS8	/SDRC/I-DEAS_8
MS7	/SDRC/I-DEAS_7
MS6A	/SDRC/I-DEAS_6
などです。	

OpenDesignサーバーは、このデフォルトのディレクトリに配置されていない場合に手動でが配置されている場所を定義することができます。
文字列値が設定エディタの [アイデア]
セクションに配置されています。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

TranslateModel入力の使用

このオプションが真に設定されている場合は、PC - DMISはインポートされたファイルをネイティブPC - DMIS CAD形式にI - DEASの形式から変換させます。このオプションを使用する場合にはIDEASサーバーは必要ありません。
True/False
値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

Verbose入力の使用

詳細エントリを使用すると、問題を診断するために役立つ追加情報を提供することができます。このエントリをI - DEASのDCIに関連するより詳細なメッセージが表示されるのを設定します。これらのメッセージは、通常、I-DEAS DCIの手順が失敗した理由に関して、メッセージを提供します。
この値は1（オン）に設定されている場合は、冗長モードはI - DEASのDCIのインポート処理中に詳細なメッセージを表示するために使用されます。
On/Off
値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

Version入力の使用

このエントリは、が機械上にインストールされるI-DEASマスターシリーズのバージョン情報を含みます。現在、PC-DMISは、マスターシリーズ6aまたは7だけをサポートします。
このエントリは、PC-DMISがI-DEASインストールのために適切なDLLを使用することを確実とします。
文字列値が設定エディタの [アイデア]
セクションに配置されています。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

Unigraphics オプション

このトピックでは、上級ユーザーは、PC-DMISとUnigraphics間のインターフェイスをカスタマイズできるように、追加のレジストリエントリを提供しています。
ここで説明されているエントリーには次が含まれています:

注記: 通常、正常にUnigraphicsのを搭載したPC-DMISを操作するため、これらのエントリのいずれかを使用する必要はありません。
警告:
システム登録が不当に編集されると、コンピュータ・システムは破損される危険があります。この理由で、弊社はPC-DMIS設定エディタを供給します。私たちは、ユーザがPC-DMISで設定を変えるのにこのアプリケーションを使用することを提案します。しかしながら、直接登録を編集すると決めるなら、登録への変更を行う前に、必ずコンピュータの上の重要なデータのバックアップをとってください。

UGLoadOption入力の使用

このオプションは、アセンブリがロードされているUnigraphicsのアセンブリコンポーネントファイルの読み込みのための規則を設定します。
UGのアセンブリファイルをインポートするときにUGのコンポーネントパーツをインポートしたディレクトリに応じて 0,1、また 2でゼロのデフォルト値を交換します。

値	意味
0	UF_ASSEM_load_from_directory
1	UF_ASSEM_load_from_search_dirs
2	UF_ASSEM_load_as_saved

オプション値は設定エディタの [オプション] セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

AllowToRunWithoutCADFile入力の使用

この入力では、オリジナルCADファイルが見つからない場合にどうするというダイアログボックスが表示されるかどうかをコントロールします。
TRUE やFALSEの必要な値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味

なし	ダイアログボックスが表示され、何をすべきかをユーザに尋ねます。
真	ダイアログボックスが表示されません。 パーツプログラムは、オリジナルUnigraphicsのCADのパートファイルを使用せずにロードされます。
偽	ダイアログボックスが表示され、何をすべきかをユーザに尋ねます。

True/False

値は設定エディタのUnigraphicsセクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

DebugDCI 入力の使用

このエントリは PC-DMIS ディレクトリにデバッグファイル、UG_DCI.txt を作成するかどうかをコントロールします。標準のテキストエディタでこのファイルに含まれている任意のデバッグ情報を表示できます。

TRUE やFALSEの必要な値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味
なし	作成されるデバッグファイルがありません。
真	UGDCIのセッションのデバッグファイルが作成されます。
偽	作成されるデバッグファイルがありません。

True/False

値は設定エディタのUnigraphicsセクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

DisplayUGLicenseErrors 入力の使用

UG DCI でインポートされるCADデータでパーツプログラムを開いている場合には、このエントリは警告ダイアログボックスが表示されますかどうかをコントロールします。

注: UG DCIを備えた新しいCADデータを輸入する時、すべてのUGライセンス・エラー・ダイアログ・ボックスも常に表示されます。さらに、適切な設定オプションをセットしていれば、UGライセンス・エラーはUG DCIに送られて、ファイルをデバッグします。「DebugDCI 入力の使用」を参照してください。

TRUE やFALSEの必要な値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味
なし	PC-DMISはUGのライセンスエラー警告ダイアログボックスが表示されます。
真	PC-DMISはUGのライセンスエラー警告ダイアログボックスが表示されます。
偽	PC-DMISは既存のパーツプログラムを開く場合に任意のUG のライセンスエラーダイアログボックスが表示されません。

True/False

値は設定エディタのUnigraphicsセクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ImportInvisibleLayers Entry入力の使用

このエントリはUnigraphicsのファイルの非表示のレイヤーのCADデータがインポートされるかどうかをコントロールします。

TRUE やFALSEの必要な値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味
なし	表示されない層のCADデータがインポートされます。
真	表示されない層のCADデータがインポートされます。
偽	表示されない層のCADデータがインポートされません。

True/False

値は設定エディタのUnigraphicsセクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ImportSelectableLayers 入力の使用

このエントリはUnigraphicsのファイルの選択のレイヤーのCADデータがインポートされるかどうかをコントロールします。

TRUE やFALSEの必要な値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味
なし	選択されない層のCADデータがインポートされます。
真	選択されない層のCADデータがインポートされます。
偽	選択されない層のCADデータがインポートされません。

True/False

値は設定エディタのUnigraphicsセクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ImportVisibleLayers エントリの使用

このエントリはUnigraphicsのファイルの表示レイヤーのCADデータがインポートされるかどうかをコントロールします。

TRUE やFALSEの必要な値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味
なし	表示される層のCADデータがインポートされます。
真	表示される層のCADデータがインポートされます。
偽	表示される層のCADデータがインポートされません。

True/False

値は設定エディタのUnigraphicsセクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ImportWorkLayer エントリーの使用

このエントリはUnigraphicsのファイルの作業レイヤーのCADデータがインポートされるかどうかをコントロールします。
TRUE やFALSEの必要な値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味
なし	作業層のCADデータがインポートされます。
真	作業層のCADデータがインポートされます。
偽	作業層のCADデータがインポートされません。

True/False
値は設定エディタの`Unigraphics`セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

LayerNumbersToImport エントリーの使用

このエントリは、層とUnigraphicsのパートのファイルからインポートされたCADデータを決定します。
CADデータをインポートする層を指定する文字列に置き換えて、現在の値を設定します。この文字列は、数層を指定するにUnigraphicsのが使用するのと同じ標準に従っています。

値	意味
なし	すべての層(1-256)でCADデータをインポート
*	すべての層(1-256)でCADデータをインポート
-15	層(1-15)でCADデータをインポート
5-10	層(5-10)でCADデータをインポート
200-	層(200-256)でCADデータをインポート
-5,10-15,200-	層(1-5, 10-15, と200-)でCADデータをインポート

文字列値が設定エディタの `[Unigraphics]`
セクションに配置されています。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

SkipNoUGExecutableFileMessage 入力の使用

このエントリをTrueに設定すると、利用可能なUGセッションでUnigraphics
DCIパーツプログラムを開く時に「UG実行ファイルを見つけることができませんでした」というメッセージは表示されません。 このエントリをFalseに設定すると、メッセージが表示されます。
True/False
値は設定エディタの`[Ideas]`セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

UseAssemblyComponentColors 入力の使用

PC-MIS バージョン3.6 以降で利用可能な`UseAssemblyComponentColors`
レジストリエントリを使用し、 PC-
DMISに各コンポーネントの色を表示させます。表示色はアセンブリで指定された元のパーツの色またはコンポーネントの色のいずれかにすることができます。
このオプションはUnigraphicsのアセンブリのインポート中に効果があります。

注記: Unigraphicsは今
Unigraphicsに表示されるようなアセンブリコンポーネントの実際の表示を決定する方法を提供します。このオプションは実際のUnigraphicsのアセンブリの表示色を一致する意味を提供します。

TRUE やFALSEの値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味
なし	各アセンブリのコンポーネントは、その元の部分の色を使用して表示されます。
真	各アセンブリのコンポーネントは、 アセンブリ内の指定されたコンポーネントの色を使用して表示されます..
偽	各アセンブリのコンポーネントは、その元の部分の色を使用して表示されます。

True/False
値は設定エディタの`Unigraphics`セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

SolidWorks オプション

このトピックでは上級ユーザーが PC-DMIS と SolidWorks
との間のインターフェイスをさらにカスタマイズできるよう、追加のレジストリ
エントリについて説明します。
ここで説明されているエントリーには次が含まれています:

警告:
レジストリが不当に編集されると、コンピュータ・システムが破損される危険があります。この理由で、弊社はPC-DMIS設定エディタを供給します。私たちは、ユーザがPC-
DMISで設定を変えるのにこのアプリケーションを使用することを提案します。しかしながら、直接登録を編集すると決めるなら、登録への変更を行う前に、必ずコンピュータの上の重要なデータのバックアップをとってください。

SaveSolidWorksAttributesInPart入力の使用

SolidWorksのダイレクトCADインターフェイスは、SolidWorksの部分でSolidWorksのCADエンティティの属性を作成します。これらの属性は、そのPCのDMISのCAD表現に関連付けるのSolidWorksのCADエンティティに使用されています。このオプションは、これらの属性がSolidWorksパートに保存されている場合をコントロールします。
TRUE やFALSEの必要な値で現在のデフォルト値を置換します。

値	意味
なし	属性が SolidWorks パートに保存されません。
真	属性が SolidWorks パートに保存されます。
偽	属性が SolidWorks パートに保存されません

オプション値は設定エディタの[オプション]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

Pro/Engineer オプション

このトピックでは上級ユーザーが PC-DMIS と
Pro/Engineerとの間のインターフェイスをさらにカスタマイズできるよう、追加のレジストリ
エントリについて説明します。
ここで説明されているエントリーには次が含まれています:

警告:
レジストリが不当に編集されると、コンピュータ・システムが破損される危険があります。この理由で、弊社はPC-DMIS設定エディタを供給します。私たちは、ユーザがPC-DMISで設定を変えるのにこのアプリケーションを使用することを提案します。しかしながら、直接登録を編集すると決めるなら、登録への変更を行う前に、必ずコンピュータの上の重要なデータのバックアップをとってください。

ProCommMsgExe 入力の使用

このエントリーはPro/ENGINEERと交流するために使われるコミュニケーション道具を始動するために実行可能プログラムのフルのパスを含んでいます。
交換のコミュニケーションツールの実行可能ファイルのフルパスなしのデフォルト値を設定します。

- ３.２５及びそのより前のバージョンで、ユーザは実際のコミュニケーションツールの実行可能プログラムへ指したPro_Comm_Msg_Exe と呼ばれる環境変数を作成する必要があります。
- バージョン３.５及びその後にバージョンで、もしＰＣ - DMIS がこの環境変数を発見することができないなら、それは設定エディタのこのエントリーにしまっておかれたパスを探します。もし適切なパスが存在するなら、ＰＣ - DMIS は適切な環境変数を作成して、プロ / ENGINEER にバッチモードで実行することを許します。

オプション値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ProEngineerApertureRadius入力の使用

このエントリーはエッジが光線ヒットから選択されるために光線が十分にエッジに近いかどうかをコントロールする、ピクセルでの絞り半径を決定します。
ピクセル単位で必要な値7のデフォルト値を置き換えます。
もし値がゼロかそれ以下であるなら、機能は７のデフォルト値、あるいは配置ファイルに保存された最新の値を使います。

- プロ/ENGINEERパートジオメトリーを選んで、突き通すためのPC-DMIS Direct CAD Interfaceにより用いられる交差点アルゴリズムは、モデルで光線交差点のリストを返します。それは、モデルのジオメトリーで、最初の光線とその「負」の交差点を計算します。出力配列は、署名された距離を増やす順に分類されます。ユーザは、光線がモデル内部に、または外側にあるかどうか決定しなければなりません。
- 光線がモデルの上で表面の中央で打つならば、アルゴリズムは表面を選びます。しかし、交差点が縁に非常に近い（内部的にねばる選択開口の範囲内で）ならば、アルゴリズムは縁も選びます。それで、 ProSelection

配列でのタイプ表面あるいは縁の１以上のエントリーが光線によってモデルの１つの実際のピアスに対応するかもしれません。これらの多数のオプションは計算と比較時間を減少させることができます。

- 絞り半径より小さくて、ＰＣ - DMIS

はより少ない交差点を返します。これは計算と比較時間を改善することができます。

オプション値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ProEngineerExecutableName 入力の使用

このエントリは、 Pro / ENGINEERを起動するために使用する実行可能ファイルが含まれているます。「PC-DMISのPro/ENGINEER Direct CAD Interfaceのインストール使用」を参照してください。

Pro / ENGINEERを起動するために使用する名前を指定する値で、proe2000i2のデフォルト値を交換します。

文字列値が設定エディタの [ProEngineer] セクションに配置されています。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ProEngineerLoad 入力の使用

このエントリーで、PC-DMISのDirect CAD Interface(DCI)が、Pro/ENGINEERに接続するのを試みるかどうか指定できます。

TRUE やFALSEの必要な値でデフォルト値を置換します。

- これをFALSEに設定すると、Pro/ENGINEER

DCIは、Pro/ENGINEERをロードするのを試みませんが、代わりにメッセージボックスを表示して、保存されたCADビューをロードするオプションを与えます。

- ユーザが接続しているPro/ENGINEERライセンスを持っている場合のみに、これをTRUEに設定するべきです。

True/False値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ProEngineerUseFeatureFilter 入力の使用

このエントリーはＰＣ - DMIS がグラフィックス表示ウインドウで表示した幾何学タイプをフィルターするかどうか決定します。これはPro/ENGINEERモデルで見いだされる中間の、アクティブでないか、あるいは隠れているジオメトリを除外します。

TRUE(1) やFALSE(0)の必要な値でデフォルト値を置換します。

- このエントリをTRUE(1)に設定すれば、PC-DMISは特徴フィルタを可能にします。
- このエントリをFALSE（0）に設定すれば、PC-DMISは特徴フィルタを無効にして、すべてのジオメトリを示します。

On/Off値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ProEngineerVersion 入力の使用

このエントリは、PC-DMISで使用するためにインストールされているProEngineerのバージョンを指定します。
使用しているProEngineerのバージョンでProEngineerのバージョンを交換します。有効な文字列は「proe2000i2」、「proe2001」、「proewildfire」、「proewildfire2」および「proewildfire3」です。
文字列値が設定エディタの [ProEngineer] セクションに配置されています。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

UseWildfireMethods 入力の使用

このエントリーはPC-DMISが、より速くProEモデルを読むためのWildfire方法を使用することを指定することを許します。ProEngineerVersionが"proe2000i2"か"proe2001"に設定されるなら、それは効き目がありません。この値がTRUEに設定されるとき、モデルを読むことができないなら、それをFALSEに変えると、この問題は解決されるかもしれません。
TRUE やFALSEの必要な値でデフォルト値を置換します。

- このエントリを真に設定する場合に、PC-DMISはモデルを読むワイルドファイアメソッドを使用します。
- このエントリがFALSEに設定されると、PC-DMISはモデルを読むために、より遅いpre-wildfire方法を使用します。

True/False値は設定エディタの[Ideas]セクション内にあります。設定エディタ値の変更の情報に「高度なレジストリオプションの設定: 序文」を参照してください。

ダイレクト CAD インターフェイスのトラブルシューティング

このトラブルシューティングガイドは
ダイレクトCADインタフェースの問題のソリューションを見つけるために使用します。
現在、このトラブルシューティングガイドでは、これらのトピックが含まれています:

Unigraphics DCIのエラーのトラブルシューティング

Unigraphics DCIをトラブルシュートする場合、最初にするべきことはDebugDCIエントリーをTRUEにセットしてPC-DMISを実行することです。こうしては、実行可能なPC-DMISアプリケーションを含んでいるディレクトリーでUG_DCI.txtという名のデバッグファイルを作成します。
このエントリを設定するには、"DebugDCI エントリの使用を参考してください。"Setting PC-DMIS 設定エディタ内の高度なUnigraphicsのオプションへの設定の下" トピック

問題:	Unigraphicsのパートファイルをインポートするときにこのエラーメッセージが表示されます: 「エラー-UGの実行ファイルを見つけることができませんでした。」
可能な原因:	• *UGII_ROOT_DIR環境変数は正確にセットされますか。* Unigraphicsのインストールプロセスでは、この環境変数を設定します。PC-DMISは、 UGの実行ファイルを見つけるためにそれを使用しています。

	値をチェックするためには、 コマンドプロンプト・ウィンドウを開けて**eco%UGII_ROOT_DIR**を入力して、 次に、ENTERを押してください。 環境変数が正確にインストールされていれば、コマンドプロンプト・ ウィンドウは環境変数を含んでいるパスを返します。 c:\ugs180\UGII\ pathway。 • *UGは、それがそうであると言う実行可能ファイルですか。* UG実行可能ファイル（Libfun.dll）は、 %UGII_ROOT_DIR%ディレクトリになければなりません。 これを検証するためには、コマンドプロンプト・ウィンドウを開けて **dir%UGII_ROOT_DIR**を入力して、次に、 ENTERを押してください。コマンドプロンプト・ウィンドウが libufun.dllファイル情報を表示するのを見るべきです。 • *使用可能な必須のUnigraphicsのライセンス機能を持っていますか。* 必要なライセンス機能は、最低のライセンス要件の表に記載されています。 Unigraphicsによって提供されるLMTOOLSという名のユーティリティの使用により、 ライセンス・マネージャーが実行されていますか、必要なライセンス機能が、 利用可能かどうかチェックすることができます。 UGFLEXLMディレクトリーにある*lmtools.exe*を開くことにより、 このユーティリティを実行することができます。 それは実行していると、**サーバの像**タブをクリックして、 **PERFORM診断**ボタンをクリックします。 LMTOOLSは、ライセンスは、それが持っているライセンス 機能及びいずれかが使用可能かどうかを表示されます。 LMTOOLSの使用方法の詳細については、 「UGのFLEXlmユーザーズ·ガイド」を参照してください。 • *UGのパートのファイルが破損していますか。* Unigraphicsは、Unigraphics部分ファイルが崩れるかどうかチェックする UG_INSPECT.EXEと呼ばれるツールを提供しています。このツールはUnigraphics UGIIディレクトリーで見つかり、 コマンドプロンプト・ウィンドウ内に実行します。 このツールの使用についての情報を得るためには、コマンドプロンプト・ ウィンドウを開いて、 **ug_inspect –help**をタイプして、それからENTERを押します。

CATIA DCIのエラーのトラブルシューティング

問題:	PC-DMISはpcdcatに接続できません。
可能な原因:	• *pcdcatはUNIXワークステーション上で実行されていますか?* プログラムpcdcatはPC- DMISに接続するために実行する必要があります。 • *pcdlrn.iniファイルまたはPC-DMIS設定エディタエントリは、UNIXボックス上のファイル pcdmis.datに同意しますか。*

	PC- DMIS設定エディタ（または3.5より前のバージョンを使用している場合 Pcdlrn.iniファイル）では、 PC側のレジストリエントリCatiaAddressは、ファイル pcdmis.datのエントリ"IP"と同じで、 且つ、UNIXワークステーションのIPアドレスでなければなりません。また、 PC側のエントリCatiaPortはpcdmis.datのエントリPORTと同じである必要があり、 両方のマシン上で開いているポートである必要があります。 • *PC-DMIS PCはUNIXワークステーションを見ることができますか?* PCがネットワークを介してUNIXワークステーションに 到達できるようにする必要があります。 PC上でコマンドプロンプトウィンドウから、「Ping IP_ADDRESS」コマンドを入力し、ここで IP_ADDRESS はUNIXワークステーション用PC-DMISのIPアドレスです。

問題:	PC-DMISはに接続できますが、フォルダを開くことができません。
可能な原因:	• *あなたがPC- DMISで与えたディレクトリ名がCATIA環境で登録されていません。* PC- DMISがモデルを読み込んでいるディレクトリは、UNIXワークステーション上のCATIA環境に登録する必要があります。 *dclsファイルを編集することによってこれを行うことができます。たとえば、" /home/ catadm / DB "のような完全なパスディレクトリがラインに登録することができます: **catia.MODEL = '"$HOME/db", "db"';** 同様に、ユーザが次の行を使用する場合、ラベルに "db"と同じディレクトリを参照することができます: **catia.MODEL = '"$HOME/db", "db"';** • *ディレクトリは適切なアクセス許可を持っていません。* ユーザーがログインして実行しているpcdcatは、 ディレクトリにアクセス許可を読み取りと書き込みが必要です。

問題:	モデルを選択することができますが、それを開くことができないので、 おそらくはそれが間違って単位を得ているということです。
可能な原因:	• *モデルの読み取り/書き込み権限がありますか?* CATIAはファイルを読み取るための読み取り/書き込み権限を持っている必要があります。

問題:	モデルに接続し、取得を示すエラーメッセージを試します:「CATIA 5 DCI DLL 読み込み中にエラーが発生「CATIA 5」指定されたモジュールが見つかりませんでした。」
可能な原因:	• *CATIA 5ビン・ディレクトリーは既にパス環境変数に加えられましたか。* パス変数が適切なビン・ディレクトリーを指さなければ、 プログラムは恐らく必要とされる.dllファイルを見つけることができません。 すべて必要な .dllファイルが 見つかりましたかどうかを発見するには、以下をください: 1. インストールされているバージョンのCATIA5決定します。バージョン3.5 MR2では、PC- DMISはr8とR10をサポートしています。 2. PC-

	DMIS定エディタを使用してリリース番号（Catia5セクションの下）を検索します。 3. 今すぐPC- DMISのインストールディレクトリに関連付けられている.dllファイルを探します。 例えば、ユーザのリリース番号が10の場合、 Catia5r10.dllを探します。 4. ウィンドウズエクスプローラの内部からのファイルを右クリックして、 **視界依存性**を選んでください。 プログラムはあなたにCatia5r10.dllが探しているが、 それを見つけなかったすべての.dllファイルを見せます。 CAT*で始まる何らかの.dllファイルがない場合、恐らくCATIA 5ビン・ディレクトリーがパスに追加されていません。 CATIAの5のbinディレクトリが含まれているようにPATH環境変数を変更するには： 1. **開始| 設定|** **コントロールパネル**を選択してください。コントロールパネルが表示されます。 2. **[システム]** アイコンをダブルクリックします。 3. **詳細設定**タブを選択します。 4. **環境変数**ボタンを選択します。 5. **システム変数**エリアの下で、 パス変数を選択して**編集**ボタンをクリックしてください。 パス変数にintel_a\code\bin directory を追加します (これはリリース番号10用c:\catia\b10\ directory やリリース番号 8 用c:\catia\b8\directoryで時々発見されるサブディレクトリです)。 6. これがパス変数に追加されたら、 **視界依存性**を使用して必ずすべてのDLLが見つからないいることを確認します。

Pro/ENGINEER DCI のエラーのトラブルシューティング

Pro / ENGINEER DCIをトラブルシューティングするとき最初にすべきことは、"/proedebug"コマンドラインフラグを搭載したPC-DMISを実行することです。これでは、診断メッセージが表示されるようになります。

手順は次のとおりです:

1. Windowsでは、PC-DMISを起動するショートカットを右クリックしてください。
2. プロパティをクリックしてください。**プロパティ** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **ショートカット** タブをクリックしてください。
4. **リンク先** ボックスで、既存の文字列にこのフラグを追加します: /proedebug
5. いつものようにPC-DMISを使用してください。

問題:	"std.out"という名前のファイルを見つけることが見つかった場合は、それはPro / ENGINEERからの診断情報が含まれている可能性があります。
可能な原因:	• *ProEngineerLoadレジストリエントリがTRUEに設定されていますか。* PC- DMIS設定エディタの[ProEngineer]セクションで、 このエントリを見つけることができます。 パーツプログラムを実行するコンピュータ上のPro/ENGINEERを持っていない場合に、 FALSEにこのエントリを設定する必要があります。

I-DEAS DCIのエラーのトラブルシューティング

I - DEAS

DCIをトラブルシューティングするには、OrbixInfoデバッグユーティリティを使用します。このユーティリティはWAIのFTPサイトからダウンロードすることができます。

OrbixInfoユーティリティのダウンロード

I - DEAS10の場合は、たとえば、ダウンロードすることができます：

ftp://ftp.wilcoxassoc.com/DCI/IDEAS/Test/OrbixInfo10.zip

または、

ftp://ftp.wilcoxassoc.com/DCI/IDEAS/Test/OrbixInfo10.exe

注: 上のリンクはI-DEAS 10向けです。異なるデバッグユーティリティは、バージョンごとに存在しています。異なるバージョンに対しては、単に同じディレクトリーから適切なユーティリティをダウンロードしてください:
ftp://ftp.wilcoxassoc.com/DCI/IDEAS/Test/

OrbixInfoユーティリティ説明のダウンロード

また、この場所からOrbixInfoユーティリティを使用するための手順をダウンロードすることができます：

ftp://ftp.wilcoxassoc.com/DCI/IDEAS/Test/OrbixInfo_Instructions.doc

I - DEASに接続するためにOrbixInfoユーティリティを使用する場合に、詳細なエラーとステータスメッセージが表示されます。これらのメッセージはPC-DMISがI-DEAS接続の問題を検索して解決することを助ける必要があります。

OrbixInfoユーティリティを使用してI - DEASのに接続できたら、PC-DMISのDCIの機能を使用して接続できるようになります。

Orbix E2Aの再インストール

I - DEASのインストールの多くのOrbixのコンポーネントが破損します。これは多くの場合、I-DEASのサーバーの接続エラーの原因となります。Orbixの再インストールはこの問題を解決することができます。I-DEAS 10 以上のOrbix E2A再インストールするには、以下をしてください。

1. 管理者権限でログインしていることを確認します。
2. ウインドウコマンドを開きます。
3. I - DEASはがインストールされている場所にディレクトリを変更します。I - DEASの10の場合は、デフォルトのインストールディレクトリはc:\EDS\I-DEAS10です。
4. binサブディレクトリにディレクトリを変更します。
5. 次のように入力します：

```
call setup_varbs
```

6. I-DEAS インストールディレクトリから、インストールサブディレクトリにディレクトリを変更します。
7. OrbixE2Aを削除するには、次を入力してください：

```
OrbixE2AInstall /r /f
```

8. OrbixのE2Aは削除されたら、OrbixのE2Aをインストールするには次のように入力します：

```
OrbixE2AInstall /I
```

9. OrbixE2Aのインストールが完了したら、もう一度I - DEASのに接続してみてください。

I - DEAS１１以上には、次の操作を行います。

1. 管理者権限でログインしていることを確認します。
2. ウインドウコマンドを開きます。
3. I - DEASはがインストールされている場所にディレクトリを変更します。I - DEASの11の場合は、デフォルトのインストールディレクトリはc:\EDS\I-DEAS11です。
4. binサブディレクトリにディレクトリを変更します。
5. 次のように入力します：

```
setup_varbs.cmd
```

6. OrbixE2Aを削除するには、次を入力してください：

```
orbix_remove.cmd
```

7. OrbixのE2Aは削除されたら、OrbixのE2Aをインストールするには次のように入力します：

```
orbix_install.cmd
```

8. Orbixのサービスが開始されていることを確認してください。これを行うには、サービスに入る（|設定|コントロールパネル|管理ツール|サービスを開始）、名前が「ITアイオナ」で始まるサービスを探します。右これらの各々をクリックし、[開始]を選択します。
9. OrbixE2Aのインストールが完了したら、もう一度I - DEASのに接続してみてください。

トラブルシューティングチップ

- リモートI-DEAS に接続している場合には、コンピュータのネットワーク名は、PC-DMISコンピュータから解決する必要があります。つまり、そのネットワーク名を使用してI - DEASのコンピュータではなく、そのIPアドレスに対してpingを実行できるようにする必要があります。逆に、PC-DMISコンピュータのネットワーク名はI - DEASのコンピュータから解決する必要があります。
- ホスト名を指定する場合は、決してあなたが同じコンピュータ上にI-DEASのに接続している場合でも、IPアドレスを使用します。ホスト名は、コンピュータのネットワーク名を使用して指定する必要があります。

SolidWorks DCIのエラーのトラブルシューティング

問題:	このerorrメッセージを取得するSolidWorksのパーツファイルをインポートする場合に： "SolidWorksのセッションに接続することができません"。
可能な原因:	• *ワークステーションからSolidWorksを実行することができますか。* SolidWorksの直接のCADインターフェイスは、SolidWorksの部分にアクセスするために、バックグラウンドでSolidWorksのセッションを起動するとSolidWorksを実行することができなければなりません。 • *SolidWorksのサポートされているバージョンがインストールされましたか。* SolidWorksのダイレクトCADインターフェイスは、SolidWorks2001 Plus、バージョン10.0.0以降をサポートしています。

問題:	これはSolidWorksのモデルは既にインポートされているパーツプログラムを開いて、非常に長い時間（5分以上）かかります。
可能な原因:	• *SaveSolidWorksAttributesInPartレジストリエントリは1に設定しましたか。* PCベースDMIS設定エディタの[OPTION]セクションにあるこのレジストリエントリは、PC-DMISがパーツプログラムの中にSolidWorksパーツデータを保存するかどうかを判断することができます。

	0にこのレジストリエントリを設定することで、ロード時間が短縮されます。

CATIA5 DCIのエラーのトラブルシューティング

CATIA 5

DCIを使用しようとするとエラーが出る場合は、役立つかもしれないダウンロードすることができますユーティリティがあります。このユーティリティは、CATIA 5への接続をテストし、結果を報告します。

CATIA 5ユーティリティのダウンロード

CATIA 5のリリースごとに別のユーティリティがあります。例えば、 CATIA 5 R15に対して、このファイルをダウンロードしてください。

ftp://ftp.wilcoxassoc.com/DCI/Catia5/TestCatiaR15.zip

注：上記リンクはCATIA 5R15に対応しています。それぞれのユーティリティは、各CATIA 5のリリースに存在しています。異なるリリースについては、単に同じディレクトリーから適切なユーティリティをダウンロードしてください: ftp://ftp.wilcoxassoc.com/DCI/Catia5

CATIA 5ユーティリティの使用

CATIA 5 ユーティリティを使用するには、 手順に従って下さい。:

1. デスクトップでCATSTART.exeの新規ショートカットを作成します。CATSTART.exeはintel_a\code\bin サブディレクトリにあるCATIA5のインストールディレクトリに保存されます。
2. ショートカットを作成した後にマウスの右ボタンでクリックしてそのプロパティを変更します。CATSTART.exeの後に以下をターゲットに追加します(CATSTART.exeと実行の間に空白があるのを確認してください):

```
-run cmd.exe -env {environment file} -direnv {environment directory}
```

使用したいCATIA 5環境ファイルで {environment file}
を置換する必要があります。それは実行されているCATIA5のリリースに対応する必要があります。

環境ファイルが格納されているディレクトリで{environment directory}
を置換する必要があります。デフォルトでは、CATIA5環境のファイルは次のディレクトリに保存されています(パスにスペースが含まれている場合は、ディレクトリは二重引用符で囲まれている必要があります):

```
"C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\DassaultSystemes\CATEnv"
```

例えば、 CATIA.V5R15.B15はCATIA5R15環境ファイルの名前で、またすべてのCATIA 5ファイルはデフォルトのディレクトリにインストールされている場合に、ショートカットターゲットは次のようになります:

```
“C:\Program Files\Dassault Systemes\B15\intel_a\code\bin\CATSTART.exe” -run cmd.exe
-env CATIA.V5R15.B15 -direnv "C:\Documents and Settings\All Users\Application
Data\DassaultSystemes\CATEnv"
```

3. 任意のディレクトリにセクション「CATIA 5ユーティリティのダウンロード」にダウンロードしたCATIA 5 ユーティリティを開けます。
4. ステップ1とステップ2で作成したショートカットを実行します。それはCATIA 5環境を初期化して、コマンド・ウィンドウを開けるべきです。これは、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して確認できます。

```
CATDllPathを設定します
```

これは、CATIA 5 intel_a\code\bin ディレクトリへの正しいパスが表示されます。

5. CATIA5ユーティリティを開けるディレクトリを参照してください。
6. コマンドライン・パラメーターとしてCATIA 5 CATPartあるいはCATProductファイルを備えたCATIA

5ユーティリティを実行してください。例えば、もしmodel.CATPartという名のCATIA 5ファイルを持っていれば、コマンドプロンプトで下記を入力します:

```
TestCatia.exe model.CATPart
```

注記:
CATIA5ファイルはTestCatia.exeが配置されている同じディレクトリに配置されていない場合に、CATIA5ファイルへの完全修飾パスを指定する必要があります。

ユーティリティが正常に完了した場合は、出力に次のようになります:

```
Create_Session() は正常に完了しました。
CATDocumentServices::OpenDocument() は正常に完了しました。
CATLockDocument() は正常に完了しました。
ドキュメントが正常にオープンしました。
CATUnLockDocument() は正常に完了しました。
```

それ以外の場合は、ユーティリティを使用して、CATIA5 DCIの問題を解決するのに役立つ情報が表示されます。

Direct CAD Translators : はじめに

Direct CAD Translators は、ネイティブ CAD システムファイルを PC-DMIS の内部 CAD フォーマットに変換することで CAD システムモデルをインポートします。Direct CAD Translators が Direct CAD Interfaces と異なる点は、データにアクセスする際に CAD システムのインストールやライセンスが不要であるということです。一たんデータが PC-DMIS に変換されると、オリジナルのファイルは必要ありません。

Direct CAD Interfaces と比較して Direct CAD Translators が優れている点は以下のとおりです。

- CAD システムのインストールやライセンスが不要。
- CADファイルのインポートが高速。
- 一たんインポートすると、オリジナルの CAD ファイルは不要。
- PC-DMIS でのモデルの作業が高速化。

Direct CAD Interfaces と比較して Direct CAD Translators が劣っている点は以下のとおりです。

- データを CAD システムから PC-DMIS の内部フォーマットに変換する際にエラーや制約が起こる可能性がある。
- PC-DMIS 演算ルーチンを使用して実行する幾何演算が、オリジナルの CAD システムの表示と理想的に適合しない可能性がある。

DCT用サポートされたCADシステム

注記する場合以外に、この情報は、PC - DMISバージョン3.5まで適用されます。現在、直接のCADトランスレータを介してサポートしているCADシステムは、次のとおりです:

CATIA 4

CATIA 4 DCTはバージョン3.2～4.2.4から CATIAモデルとエクスポートファイルをサポートしています。

CATIA 5

CATIA 5 DCTはリリース６～１２からCATIA 5 パートファイル(CATPart)とアセンブリファイル（CATProduct）をサポートしています。

CATIA 5 DCT はPC-DMIS 3.5で利用可能ではありません。

Pro/ENGINEER

Pro/ENGINEER DCT はバージョン18ワイルドファイア2からPro/ENGINEER パートとand
アセンブリファイルをサポートします。
PC-DMIS 3.5はバージョン18
～2001からPro/ENGINEERのパートとアセンブリファイルのみをサポートしています。

Unigraphics

UnigraphicsDCT バージョン15 ～NX2からUnigraphics
のパートとアセンブリファイルをサポートしています。圧縮されたファイルはサポートされています。
PC-DMIS 3.5は15 ～18からのUnigraphicsのパートと組立てファイルのみをサポートしています。PC-DMIS 3.5は圧縮されたUnigraphicsファイルを支援しません。

Parasolid

パラソリッドDCT はバージョン11
～16からパラソリッドのパートとアセンブリファイルをサポートしています。
PC-DMIS 3.5は11 ～14からパラソリッドのパートとアセンブリファイルのみをサポートしています。

ダイレクトCADトランスレーターの使用

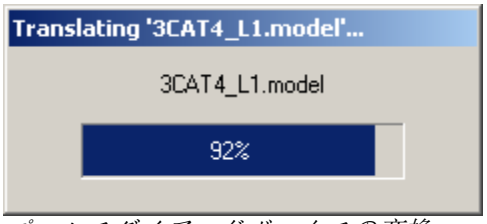
ダイレクトCADトランスレータを使用するのは、特別なソフトウェアのセットアップまたはインストールする必要があります。

用語注記: このドキュメントの大部分では、単独で長期の"PC- DMIS"はすべてのPC-DMIS製品をサポートしている直接CADトランスレータを指します。現在、これらは、PC- DMISとPC-DMISプランナーが含まれています。製品の具体的な手順が必要とされる場合には、特定のPC-DMIS製品名が使用されます。

PC-DMIS用CATIA 4Direct CAD の使用

CATIAの4の直接のCADトランスレータはPC-DMISにネイティブCATIA
4ファイルをインポートし、CADファイルが翻訳されている方法については、パラメータを指定することができます。新しいPC-
DMISパーツプログラムは、CATIA4ファイルをインポートする前に作成する必要があります。
CATIA4ファイルをインポートするには：

1. **ファイル|インポート|CATIA**メニューオプションを選択してください。[**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れます。
2. 参照してCatia 4ファイルを選択してください。
3. **インポート**ボタンをクリックして下さい。ダイアログ ボックスが表示され、Catia 4ファイルの変換のプロセスを表示しています。



プロセスダイアログボックスの変換

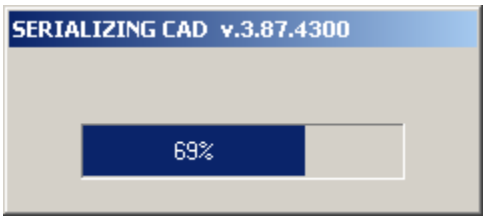
4. インポートされたモデルは、いつでもPC-DMIS内で使用できます。

注記: PC-DMIS CATIA 4.0 DCI
がモデルで正常に動作するために必要な最小のCATIA4.0ライセンスは同じで、モデルはがCATIA内にオープン、訂正と保存することができます。すべての低いライセンスは十分ではありません。
CATIA内にオープン、訂正と保存する能力は多少モデル自体の内容に依存しますので、最小ライセンスは具体的に定義することはできません。

PC-DMIS用CATIA 5Direct CAD の使用

CATIAの5の直接のCADトランスレータはPC-DMISにネイティブCATIA
5ファイルをインポートし、CADファイルが翻訳されている方法については、インポートしたエントリーを指定することができます。新しいPC-
DMISパーツプログラムは、CATIA5ファイルをインポートする前に作成する必要があります。
CATIA 5 ファイルをインポートするには:

1. **ファイル|インポート|CATIA**
5メニューオプションを選択してください。[**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れます。
2. 参照してCatia 5ファイルを選択してください。
3. **インポート**ボタンをクリックして下さい。ダイアログ ボックスが表示され、Catia
5ファイルの変換のプロセスを表示しています。



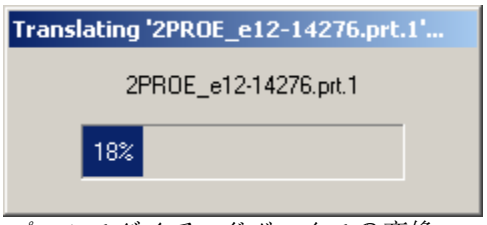
プロセスダイアログボックスの変換

4. インポートされたモデルは、いつでもPC-DMIS内で使用できます。

PC-DMIS用Pro/ENGINEER Direct CAD の使用

Pro/Engineerの直接のCADトランスレータはPC-
DMISにネイティブPro/Engineerファイルをインポートし、CADファイルが翻訳されている方法については、パラメータを指定することができます。新しいPC-
DMISパーツプログラムは、Pro/Engineerファイルをインポートする前に作成する必要があります。
Pro/ENGINEERファイルをインポートするには:

1. **ファイル|インポート| Pro/ENGINEER** メニュー
オプションを選択して下さい。[**ファイルを開く**]ダイアログ ボックスが現れます。
2. 参照してPro/Engineerを選択してください。
3. **インポート**ボタンをクリックして下さい。ダイアログ
ボックスが表示され、Pro/Engineer ファイルの変換のプロセスを表示しています。



プロセスダイアログボックスの変換

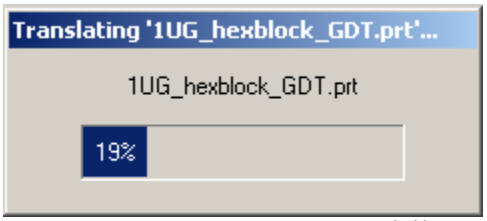
4. インポートされたモデルは、いつでもPC-DMIS内で使用できます。

PC-DMIS用UnigraphicsおよびParasolid Direct CAD の使用

UnigraphicsおよびParasolidはの直接のCADトランスレータはPC-DMISにネイティブUnigraphicsやParasolidファイルをインポートし、CADファイルが翻訳されている方法については、パラメータを指定することができます。新しいPC-DMISパーツプログラムは、UnigraphicsやParasolidファイルをインポートする前に作成する必要があります。

Unigraphics または Parasolid ファイルをインポートするには:

1. **ファイル|インポート|Unigraphics**メニューオプションを選択してください。[**ファイルを開く**]ダイアログボックスが現れます。
2. 参照してUnigraphicsや Parasolid ファイルをインポートします。
3. **インポート**ボタンをクリックして下さい。ダイアログボックスが表示され、UnigraphicsやParasolidファイルの変換のプロセスを表示しています。



プロセスダイアログボックスの変換

4. インポートされたモデルは、いつでもPC-DMIS内で使用できます。

索引

A

ACIS DCI 42
インポート 43
テスト 43
AutoConnect 47

C

CATIA 5 DCI 15, 73
オプション環境ファイルの指定 15
テスト 16
トラブルに対処 69
ユーザー定義オブジェクト (UDO) 17
接続 17
CATIA DCI 8, 73
Catia.dcls ファイル 11
Pcdcat インターフェイスのインストール 9
Pcdmis.dat ファイル 9, 10
UNIX システムとのネットワーキング 12
ｲﾝﾎﾟｰﾄ 14
テスト 13
トラブルに対処 65
ネットワーキング 12
ファイルの宣言 10
レジストリの変更 12
レジストリの例 12

D

Direct CAD Interfaces および Translators 1
Direct CAD Translators 71, 73
サポートされたCADシステム 72

I

I-DEAS DCI 23
[I-DEAS サーバー接続] ダイアログ ボックス 26
ConnectActiveServerEntry 47
FTP 設定ダイアログ ボックス 34
FtpPassWord 48
FtpUserName 48
FTPの設定 33
FTP接続のﾃｽﾄ 36
I-DEAS のリモート設定 38
Ideas_param10.dat ファイル 40
IIOP Orbix通信を使用する 28
IT_DOMAIN_NAME の追加 41
Java のインストール 38
MyDomain.cfg のコピー 39
Orbix IIOP通信プロトコル入力 50
Orbix ポート 27, 52
Orbix 通信プロトコル 29, 50
OrbixE2A のインストール 39
OrbixIIOPProtocol エントリ 50
OrbixPort エントリ 51
OrbixPortEntry 51
Orbixｻｰﾊﾞ 30
PC-DMIS PC 環境 41
Startup.Init 40
Verbose エントリ 54
アセンブリ 34
ｲﾝﾎﾟｰﾄ 25
インポートするパート 37
コンテナ 33
サーバーエントリ 53
サーバーへ接続 32
セッションの開始 42
セットアップ 39
テスト 24
トラブルに対処 67
ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ 27
パスワード 36
プロジェクト 33
ホスト 26
ホストオプション 26
ユーザー名 36
共通セットアップ 40
項目選択ダイアログボックス 32
座標系の選択ダイアログボックス 36
詳細設定 46
選択したコンテナファイルのパート 34
選択済みのパート 37
匿名でﾛｸﾞｲﾝ 35
I-DEAS DCI バージョン 10 38

P

Parasolid DCT 75
PRO/E DCI 18, 74
Pro_comm_msg.exe 19
PRO_COMM_MSG_EXE 環境変数 19
ProCommMsgExe エントリ 61
ProEngineerApertureRadius エントリ 62
ProEngineerExecutableName エントリ 62
ProEngineerLoad エントリ 63
ProEngineerUseFeatureFilter エントリ 63
ProEngineerVersion エントリ 63
UseWildfireMethods エントリ 64
ｲﾝﾎﾟｰﾄ 22
テスト 22
トラブルに対処 66
パスの割り当て 20
レジストリ設定 21
詳細設定 61

変数の作成 20

S

SkipNoUGExecutableFileMessage 59

SolidWorks DCI 44

SaveSolidWorksAttributesInPart エントリ . 60

ｲﾝﾎﾟｰﾄ 45

ﾃｽﾄ 45

トラブルに対処 69

詳細設定 60

T

TranslateModel 53

U

Unigraphics DCI 3

AllowToRunWithoutCADFile エントリ 55

DebugDCI エントリ 56

DisplayUGLicenseErrors エントリ 56

ImportInvisibleLayers エントリ 57

ImportSelectableLayers エントリ 57

ImportVisibleLayers エントリ 58

ImportWorkLayer エントリ 58

LayerNumbersToImport エントリ 58

UGLoadOption エントリ 55

UseAssemblyComponentColors エントリ .. 59

ｲﾝﾎﾟｰﾄ 7

テスト 5

トラブルに対処 64

詳細設定 54

読み込み方法のｱｾﾝﾌﾞﾘｰ 6

Unigraphics DCT 75

V

Version エントリ 54

い

インストレーションの概要 2

さ

サポートされたCADシステム 2

た

ダイレクト CAD インターフェイス 1

トラブルに対処 64

重要 2

ふ

ﾌｨﾙﾀｰ 33

ほ

ホスト 49

漢字

高度な Ini/レジストリ オプション 46

最小ライセンス要件 3

新規パートﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 6, 13, 16, 22, 24, 43, 45

接続ステータスインジケータ 3

変換ﾓﾃﾞﾙ 33

用語集

D

DCI: Direct CAD Interfaces では、CAD データを変換せずに CAD システムとの直接インターフェイスが可能です。この特別な機能では、実際に CAD システムのネイティブな数学的ルーチンを使用して要求された情報を取得します。さらに、Direct CAD interface では、幾何学要素を表示したりインターフェイスを確立するために CAD システムのネイティブ　API を使用して CAD データベースにアクセスします。

DCT: Direct CAD Translators は、ネイティブ CAD システムファイルを PC-DMIS の内部 CAD フォーマットに変換することで CAD システムモデルをインポートします。

Direct CAD Translators: Direct CAD Translators は、ネイティブ CAD システムファイルを PC-DMIS の内部 CAD フォーマットに変換することで CAD システムモデルをインポートします。

た

ダイレクト CAD インターフェイス: Direct CAD Interfaces では、CAD データを変換せずに CAD システムとの直接インターフェイスが可能です。この特別な機能では、実際に CAD システムのネイティブな数学的ルーチンを使用して要求された情報を取得します。さらに、Direct CAD interface では、幾何学要素を表示したりインターフェイスを確立するために CAD システムのネイティブ　API を使用して CAD データベースにアクセスします。